

2021年 春季年会

年会プログラム

於 東京工業大学 (オンライン開催)

2021年3月16日(火) ~ 3月19日(金)

日本天文学会

日本天文学会 2021年 春季年会プログラム

期 日 2021年3月16日(火)～3月19日(金)

場 所 オンライン開催

電 話 090 - 4387 - 6893 (学会事務局) <使用期間 2021年3月15日(月)～3月19日(金)>

E-Mail nenkai-committee@asj.or.jp (年会実行委員会)

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
3月15日 (月)							記者会見			理事会			
3月16日 (火)	A		Z3. 計算宇宙惑星		昼 休 み 11:40-13:00		Z3. 計算宇宙惑星	ポスター		特別 セッション (X線分光撮像衛星)			
	B		W. コンパクト天体			W. コンパクト天体							
	C		S. 活動銀河核			S. 活動銀河核							
	D		V2. 観測機器(光赤・重)			V2. 観測機器(光赤・重)							
	E		V3. 観測機器(X線・γ線)			V3. 観測機器(X線・γ線)							
	F		P2. 原始惑星系円盤			P2. 原始惑星系円盤							
	G		Q. 星間現象			Q. 星間現象							
	H												
3月17日 (水)	A		Z3. 計算宇宙惑星		昼 休 み 11:40-13:00		Z1. 天文データ科学	特別 セッション (日本学術会議と 日本天文学会)		天文教育 フォーラム			
	B		W. コンパクト天体			W. コンパクト天体							
	C		R. 銀河			R. 銀河							
	D		V2. 観測機器(光赤・重)			V2. 観測機器(光赤・重)							
	E		V3. 観測機器(X線・γ線)			V3. 観測機器(X線・γ線)							
	F		P2. 原始惑/P1.星形成			P1. 星形成							
	G		Q. 星間現象			Q. 星間現象							
	H		Y. 教育・広報・他			Y. 教育・広報・他							
3月18日 (木)	A		Z1. 天文データ科学		昼 休 み 11:40-13:00		Z1. 天文データ科学	ポスター		会 員 全体集会			
	B		W. コンパクト天体			N. 恒星進化							
	C		X. 銀河形成・進化			X. 銀河形成・進化							
	D		V1. 観測機器(電波)			V1. 観測機器(電波)							
	E		T. 銀河団			U. 宇宙論							
	F		P1. 星形成			P1. 星形成							
	G		M. 太陽			M. 太陽							
	H					P3. 惑星系							
3月19日 (金)	A		Z2. ngVLAの天文学		昼 休 み 11:40-13:00 (代議員総会)		Z2. ngVLAの天文学	ポスター		受賞記念講演			
	B		N. 恒星進化			N. 恒星進化							
	C		X. 銀河形成・進化			X. 銀河形成・進化							
	D		V1. 観測機器(電波)			V1. 観測機器(電波)							
	E												
	F												
	G		M. 太陽			M. 太陽							
	H		P3. 惑星系			P3. 惑星系							
3月20日 (土)		ジュニアセッション											
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	

※セッション(午前) 09:30～11:40

※セッション(午後) 13:00～15:10

※ポスターセッション 15:10～16:10

◎講演数

講演数：合計 575
 (口頭講演 (a)：496、ポスター講演 (b)：79)

◎参加登録について (参加希望者は、必ず事前に参加登録をしてください)

2016年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られております。

○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	無 料	無 料
講演登録費	3,000 円 (不課税) (1 講演につき) (但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円 / 非会員 11,000 円)	10,000 円 (1 講演につき)
年会予稿集	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)	2,000 円 (消費税込み)

○参加登録受付場所：学会ホームページ (<https://www.asj.or.jp/>)

○参加登録受付期間：2021 年 1 月末～3 月 2 日 (事前登録が必要。但し講演者は不要です)

※参加費については今回は無料です。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

◎講演に関する注意

- 口頭発表は 8 会場で行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。
 ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

- PC 及び通信環境はご自身でご用意をお願いいたします。発表に要する通信料等は、発表者の自己負担です。Zoom を利用しますので、学会ホームページをご覧になり、事前にダウンロードや動作確認をしてください。また、発表者自身のインターネット接続、映像・音声等のトラブルの対応はできません。基本的にはご自身での解決をお願いいたします。
- 講演者は、セッション開始時刻の 10 分前までにご入室ください。担当者が説明をいたします。視聴者は、セッション開始時刻の 5 分前からご入室ください。また入室の際には、下記の命名規則に従って「参加者名」を設定してください。

参加種別	「参加者名」の命名規則	例
講演者	「*(アスタリスク)」+「講演番号」+「氏名」+「(所属)」	*Z141a 天文花子 (天文大学)
視聴者	「氏名」+「(所属)」	天文花子 (天文大学)

- ポスターセッションは Slack を利用します。コアタイムの間、極力リアルタイムで返信をしてください。
- 講演の実施方法の詳細は、学会ホームページに掲載いたします。事前に説明をよく読んで、Zoom の操作手順に関する理解を深めておいていただくようお願いいたします。
- 受信画像や発表資料の保存 (キャプチャを含む)、録音や配布は固くお断りします。

◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
3月15日(月)	13:00～15:00	オンライン	記者会見
3月16日(火)	16:30～18:00	オンライン	特別セッション X線分光撮像衛星「XRISM」
3月17日(水)	15:30～17:00	オンライン	特別セッション 日本学術会議と日本天文学会「よりよい連携のために」
	17:00～18:30	オンライン	天文教育フォーラム
3月18日(木)	16:30～18:30	オンライン	会員全体集会
3月19日(金)	16:30～18:00	オンライン	受賞記念講演

◎会合一覧表

※今回、通常の会合は募集しておりません。

月 日	時 間	会 場	会 合 名	参加可否*
3月15日(月)	16:00～18:00	オンライン	理事会	D
3月19日(金)	11:40～13:00	オンライン	代議員総会	D

※年会参加者の参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

◎特別セッション：「X線分光撮像衛星—XRISM—」

日時：2021年3月16日（火）16：30～18：00
 場所：オンライン会場（学会ホームページにて事前登録が必要）
 概要：ASTRO-H（ひとみ）衛星により拓かれた超精密X線分光観測を早急に回復するため、JAXAはNASAとESAの協力のもと、2022年度にXRISM衛星を打ち上げる予定です。衛星には、100 km/sの速度を分解できるマイクロカロリメータ検出器 Resolve と 38'の広視野を持つ CCD 検出器 Xtend が搭載されます。

本特別セッションでは、まずはプロジェクトの進行状況について天文学会の皆様に報告します。次に搭載装置の性能とともに、XRISM衛星によって初めて可能となるサイエンスケースについて、ブラックホールや活動銀河核、ガンマ線バーストなどの突発天体、超新星残骸、銀河団などを例に紹介します。最後に Performance Verification(PV)観測からデータ公開までのスケジュールと、PV期間中のゲストサイエンティスト制度、その後の公募観測の詳細を説明します。

ゲストサイエンティストは本ミッションで初めて導入される制度であり、PV期間に観測される天体のうち原則として1天体へのデータアクセス権があります。他波長の観測者や理論研究者など様々な視点を持った皆様の参加を期待しています。

プログラム：

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. プロジェクトの進行状況 | 田代 信 (ISAS/JAXA・埼玉大学) |
| 2. XRISMによるブラックホール、活動銀河核、突発天体の観測 | 上田佳宏 (京都大学) |
| 3. XRISMによる超新星残骸、銀河団の観測 | 藤田 裕 (東京都立大学) |
| 4. ゲストサイエンティスト、公募観測など | 山口弘悦 (ISAS/JAXA) |

世話人：田代 信 (ISAS/JAXA・埼玉大学)、松下恭子 (東京理科大学)、山口弘悦 (ISAS/JAXA)

◎特別セッション：「日本学術会議と日本天文学会—よりよい連携のために—」

日時：2021年3月17日（水）15：30～17：00
 場所：オンライン会場（学会ホームページにて事前登録が必要）
 概要：現在、日本学術会議は会員の任命拒否問題を発端に、その存在が様々な角度からクローズアップされている。本件に関しては、日本天文学会でもメーリングリスト上で様々な意見交換がなされているところである。

日本学術会議は発信が不足しているとの一般的指摘もあり、この点については日本学術会議においても認識され、改善に向けた取組が計画されている。日本天文学会と日本学術会議との連携は、これまで代議員総会などで関連する日本学術会議分科会の活動報告が行われてきたものの、その連携内容は学会員に充分には理解されていない状況にある。

そこで、日本学術会議の中で日本天文学会と深い関係を持つ、物理学委員会天文学・宇宙物理分科会およびIAU分科会の役割や活動について紹介し、質疑応答・意見交換する機会を設けることで、日本天文学会と日本学術会議の連携について学会員により深く理解いただくと共に、今後の連携のあり方を議論するため、本特別セッションを企画するものである。

プログラム：

- | | |
|-------------------------------------|------------------|
| 1. セッション趣旨説明 [5分] | 梶田隆章 (東京大学) |
| 2. 日本学術会議と天文学（役割、活動、会員選出手順など） [25分] | 山崎典子 (ISAS/JAXA) |
| 3. 質疑・総合討論 [60分] | |

世話人：林 正彦（日本学術振興会ボン研究連絡センター）、渡部潤一（国立天文台）

主催：公益社団法人 日本天文学会

共催：日本学術会議 物理学委員会 天文学宇宙物理分科会・IAU分科会

◎天文教育フォーラム：「天文学から SDGs へのアプローチ」

日 時：2021年3月17日（水）17：00～18：30

場 所：オンライン会場（学会ホームページにて事前登録が必要）

概 要：2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)が挙げられている。

これを受けて、国際天文学連合(IAU)でも、Strategic Plan 2020-2030で示した活動計画の中で「発展のための手段として天文学の利用を推進する」ことを明示し、SDGs達成のための取り組みを重点課題として挙げて活動している。SDGsに関しては、近年、日本国内でもその達成を目指して多くの企業などで様々な取り組みが始まっている。

しかしながら、日本の個々の天文学者や天文コミュニティでは、SDGsに関して、その中身の理解や、SDGsを追求する理由などが完全に浸透しているとは言い難いように思われる。そこで今回の天文教育フォーラムではSDGsをテーマに取り上げ、「SDGsとは何か」「科学者とSDGsの関わりとは」「天文学とSDGs」などを掘り下げていく機会を設けたいと考えている。議論を通して、天文学コミュニティがSDGsで解決を求められている諸問題と、どのように向き合っていくのかを考えるきっかけとしていきたい。

話題提供（敬称略）：沖 大幹（東京大学/国際連合）

「SDGsと自然科学研究」

渡部潤一（国立天文台/IAU）

「IAU Strategic Plan：2020-2030とSDGs」

世 話 人：鴈野重之（九州産業大学）、高梨直紘（東京大学）、亀谷和久（国立天文台）、磯部洋明（京都市立芸術大学）

主 催：公益社団法人 日本天文学会 / 一般社団法人 日本天文教育普及研究会

◎日本天文学会公開講演会

日 時：2021年3月20日（土）18：00～20：30（予定）

場 所：オンライン会場（学会ホームページにて事前登録が必要）

対 象：中学生以上・一般向け

テ ー マ：「宇宙と生命の起源」

宇宙、そして生命はどのように誕生し、進化してきたのか。宇宙には地球以外にも生命が存在する場所はあるのか。そもそも生命とは何か。第一線で活躍する東京工業大学の研究者が、宇宙と生命の起源に迫る最新の研究成果を分かりやすくご紹介します。

講師・タイトル：下記をご参照ください。

参加費：無料（事前登録制）

定 員：1,000名（先着順）

<講演内容の紹介>

講演1：「突発天体の多様な観測で探る宇宙と元素の起源」

講師：河合誠之（東京工業大学 教授）

近年の技術革新によって、稀で短時間しか続かず、しかも空のどこで発生するのか予想できない現象を、衛星や地上望遠鏡、さらには重力波など様々な方法で詳しく観測できるようになりました。その代表がガンマ線バーストです。素性の異なる2種類それぞれが宇宙の起源の解明に重要な役割を果たします。太陽の20倍以上の質量を持つ恒星が燃え尽きた時に発生する「長い」ガンマ線バーストは、恒星が生まれ始めた100億年以上前の幼年期の宇宙で炭素や酸素など生命に不可欠な元素が作られ始める様子を見せてくれます。「短い」ガンマ線バーストは中性子星2個が衝突して合体する時に重力波とともに発生し、そこで金や白金などの希少な重元素が作られると考えられています。

講演2：「ハビタブルな宇宙 — 系外惑星がもたらした生命像の変容と転換」

講師：井田 茂（東京工業大学 教授）

21世紀に入り、「地球外生命」は実証可能性を持つ科学の分野となり、その研究は急進展しています。その契機となったのが、1995年以來の太陽系外の惑星（系外惑星）の発見であり、2005年の土星の衛星エンケラドスの間欠泉の発見です。最近では、ハビタブルゾーンと呼ばれる、液体の水が表面に存在できる温度範囲の軌道にある地球サイズの系外惑星の発見が続々と報告されています。エンケラドスの内部に海が存在することは確実で、他の衛星、小惑星、そして冥王星にも内部海があるかもしれません。このように、地球外生命が存在する可能性がある天体が実際に次々と特定されてきたことで、地球外生命探査の方向性は急速に変化し、私たちは生命とは何かという根源的な問をつきつけられています。

主 催：公益社団法人 日本天文学会

共 催：東京工業大学理学院系外惑星観測研究センター

※プログラム、参加申込方法につきましては学会ホームページ（<https://www.asj.or.jp/>）をご覧ください。

口頭セッション 3月16日(火)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場
開始時刻	計算宇宙惑星	コンパクト天体	活動銀河核	観測機器(光赤・重)	観測機器(X線・γ線)	原始惑星系円盤	星間現象	
09:30	Z301r ~ Z310a	W01a	S01a	V201a	V301a	P201a	Q01a	-
09:42		W02a	S02a	V202a	V302a	P202a	Q02a	-
09:54		W03a	S03a	V203a	V303a	P203a	Q03a	-
10:06		W04a	S04a	V204a	V304a	P204a	Q04a	-
10:18		W05a	S05a	V205a	V305a	P205a	Q05a	-
10:30		W06a	S06a	V206a	V306a	P206a	Q06a	-
10:42		W07a	S07a	V207a	V307a	P207a	Q07a	-
10:54		W08a	S08a	V208a	V308a	P208a	Q08a	-
11:06		W09a	S09a	V209a	V309a	P209a	Q09a	-
11:18		W10a	S10b S11b	V210b V211b	-	P210a	Q10b	-
11:30		W11b W12b W13b	-	-	-	-	-	-
11:40	昼休み							
開始時刻	計算宇宙惑星	コンパクト天体	活動銀河核	観測機器(光赤・重)	観測機器(X線・γ線)	原始惑星系円盤	星間現象	
13:00	Z311a ~ Z322a	W14a	S12a	V212a	V310a	P211a	Q11a	-
13:12		W15a	S13a	V213a	V311a	P212a	Q12a	-
13:24		W16a	S14a	V214a	V312a	P213a	Q13a	-
13:36		W17a	S15a	V215a	V313a	P214a	Q14a	-
13:48		W18a	S16a	V216a	V314a	P215a	Q15a	-
14:00		W19a	S17a	V217a	V315a	P216a	Q16a	-
14:12		W20a	S18a	V218a	V316a	P217a	Q17a	-
14:24		W21a	S19a	V219a	V317a	P218a	Q18a	-
14:36		W22a	S20a	V220a	V318b V319b V320b	P219a	Q19b Q20b	-
14:48		W23a	S21a	V221b V222b	V321b	P220b	-	-
15:00		W24a	S22a	-	-	-	-	-
15:12		-	-	-	-	-	-	-
15:10		ポスター						
16:30	特別セッション「X線分光撮像衛星—XRISM—」							

口頭セッション 3月17日(水)

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場	H 会場
開始時刻	計算宇宙惑星	コンパクト天体	銀河	観測機器(光赤・重)	観測機器(X線・γ線)	原始惑星系円盤/星形成	星間現象	教育・他
09:30	Z323r ~ Z329a 議論	W25a	R01a	V223a	V322a	P221a	Q21a	Y01a
09:42		W26a	R02a	V224a	V323a	P222a	Q22a	Y02a
09:54		W27a	R03a	V225a	V324a	P223a	Q23a	Y03a
10:06		W28a	R04a	V226a	V325a	P224a	Q24a	Y04a
10:18		W29a	R05a	V227a	V326a	P225a	Q25a	Y05a
10:30		W30a	R06a	V228b V229b V230b	V327a	P101a	Q26a	Y06a
10:42		W31a	R07a	V231b V232b V233b	V328a	P102a	Q27a	Y07a
10:54		W32a	R08a	V234b V235b V236b	V329a	P103a	Q28a	Y08b Y09b Y10b
11:06		W33a	R09b R10b R11b	V237b	V330a	P104a	Q29a	Y11b
11:18		W34a	R12b R13b	-	V331a	P105a	-	-
11:30		W35b W36b W37b	-	-	-	-	-	-
11:40		昼休み						
開始時刻	天文データ科学	コンパクト天体	銀河	観測機器(光赤・重)	観測機器(X線・γ線)	星形成	星間現象	教育・他
13:00	Z101a ~ Z106r	W38a	R14a	V238a	V332a	P106a	Q30a	Y12a
13:12		W39a	R15a	V239a	V333a	P107a	Q31a	Y13a
13:24		W40a	R16a	V240a	V334a	P108a	Q32a	Y14a
13:36		W41a	R17a	V241a	V335a	P109a	Q33a	Y15a
13:48		W42a	R18a	V242a	V336a	P110a	Q34a	Y16a
14:00		W43a	R19a	V243a	V337a	P111a	Q35a	Y17a
14:12		W44a	R20a	V244a	-	P112a	Q36a	-
14:24		W45a	R21a	-	-	P113b P114b P115b	-	-
14:36		W46a	R22a	-	-	P116b P117b P118b	-	-
14:48		W47a	R23a	-	-	P119b P120b P121b	-	-
15:00		-	R24a	-	-	-	-	-
15:30		特別セッション 「日本学術会議と日本天文学会 -よりよい連携のために-						
17:00	天文教育フォーラム							

口頭セッション 3月18日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場
開始時刻	天文データ 科学	コンパクト 天体	銀河形成	観測機器 (電波)	銀河団	星形成	太 陽	
09:30	Z107a ~ Z116a	W48a	X01a	V101a	T01a	P122a	M01a	-
09:42		W49a	X02a	V102a	T02a	P123a	M02a	-
09:54		W50a	X03a	V103a	T03a	P124a	M03a	-
10:06		W51a	X04a	V104a	T04a	P125a	M04a	-
10:18		W52a	X05a	V105a	T05a	P126a	M05a	-
10:30		W53a	X06a	V106a	T06a	P127a	M06a	-
10:42		W54a	X07a	V107a	T07a	P128a	M07a	-
10:54		W55a	X08a	V108a	T08a	P129a	M08a	-
11:06		W56a	X09a	V109a	T09a	P130a	M09b M10b M11b	-
11:18		W57a	X10b X11b X12b	V110a	T10a	P131a	M12b	-
11:40	昼休み							
開始時刻	天文データ 科学	恒星進化	銀河形成	観測機器 (電波)	宇宙論	星形成	太 陽	惑星系
13:00	Z117a ~ Z121r summary	N01a	X13a	V111a	U01a	P132a	M13a	P301a
13:12		N02a	X14a	V112a	U02a	P133a	M14a	P302a
13:24		N03a	X15a	V113a	U03a	P134a	M15a	P303a
13:36		N04a	X16a	V114a	U04a	P135a	M16a	P304a
13:48		N05a	X17a	V115a	U05a	P136a	M17a	P305a
14:00		N06a	X18a	V116a	U06a	P137a	M18a	P306a
14:12		N07a	X19a	V117a	-	P138a	M19a	P307a
14:24		N08a	X20a	V118a	-	P139a	M20a	P308a
14:36		N09a	X21a	V119a	-	P140a	M21a	P309b P310b P311b
14:48		N10b N11b	X22a	V120b V121b V122b	-	P141a	M22a	P312b P313b P314b
15:00	-	-	-	-	P142a	-	P315b	
15:10	ポスター							
16:30	会員全体集会							

口頭セッション 3月19日(金)

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場	H 会場
開始時刻	ngVLAの天文学	恒星進化	銀河形成	観測機器(電波)			太陽	惑星系
09:30	Z201r ゝ Z213b	N12a	X23a	V123a	-	-	M23a	P316a
09:42		N13a	X24a	V124a	-	-	M24a	P317a
09:54		N14a	X25a	V125a	-	-	M25a	P318a
10:06		N15a	X26a	V126a	-	-	M26a	P319a
10:18		N16a	X27a	V127a	-	-	M27a	P320a
10:30		N17a	X28a	V128a	-	-	M28a	P321a
10:42		N18a	X29a	V129a	-	-	M29a	P322a
10:54		N19a	X30a	V130a	-	-	M30a	P323a
11:06		N20a	X31a	V131a	-	-	M31a	P324a
11:18		N21a	-	V132b V133b V134b	-	-	M32a	P325a
11:30		-	-	V135b V136b	-	-	-	-
11:40		昼休み(代議員総会)						
開始時刻	ngVLAの天文学	恒星進化	銀河形成	観測機器(電波)			太陽	惑星系
13:00	Z214r ゝ Z222a	N22a	X32a	V137a	-	-	M33a	P326a
13:12		N23a	X33a	V138a	-	-	M34a	P327a
13:24		N24a	X34a	V139a	-	-	M35a	P328a
13:36		N25a	X35a	V140a	-	-	M36a	P329a
13:48		N26a	X36a	V141a	-	-	M37a	-
14:00		N27a	X37a	V142a	-	-	-	-
14:12		N28a	X38a	V143a	-	-	-	-
14:24		-	X39a	V144a	-	-	-	-
14:36		-	X40a	V145b V146b V147b	-	-	-	-
14:48		-	X41a	-	-	-	-	-
15:00		-	X42a	-	-	-	-	-
15:10		ポスター						
16:30	受賞記念講演							

ポスターセッション 3月16日(火)・3月18日(木)・3月19日(金)

<p>【Z2. ngVLAの天文学】(4)</p> <p>Z210b Z211b Z212b Z213b</p> <p>【M. 太陽】(4)</p> <p>M09b M10b M11b M12b</p> <p>【N. 恒星・恒星進化】(2)</p> <p>N10b N11b</p> <p>【P1. 星・惑星形成(星形成)】(9)</p> <p>P113b P114b P115b P116b P117b</p> <p>P118b P119b P120b P121b</p> <p>【P2. 星・惑星形成(原始惑星系円盤)】(1)</p> <p>P220b</p> <p>【P3. 星・惑星形成(惑星系)】(7)</p> <p>P309b P310b P311b P312b P313b</p> <p>P314b P315b</p> <p>【Q. 星間現象】(3)</p> <p>Q10b Q19b Q20b</p> <p>【R. 銀河】(5)</p> <p>R09b R10b R11b R12b R13b</p> <p>【S. 活動銀河核】(2)</p> <p>S10b S11b</p>	<p>【V1. 観測機器(電波)】(11)</p> <p>V120b V121b V122b V132b V133b</p> <p>V134b V135b V136b V145b V146b</p> <p>V147b</p> <p>【V2. 観測機器(光赤外・重力波・その他)】(14)</p> <p>V210b V211b V221b V222b V228b</p> <p>V229b V230b V231b V232b V233b</p> <p>V234b V235b V236b V237b</p> <p>【V3. 観測機器(X線・γ線)】(4)</p> <p>V318b V319b V320b V321b</p> <p>【W. コンパクト天体】(6)</p> <p>W11b W12b W13b W35b W36b</p> <p>W37b</p> <p>【X. 銀河形成・進化】(3)</p> <p>X10b X11b X12b</p> <p>【Y. 天文教育・広報普及・その他】(4)</p> <p>Y08b Y09b Y10b Y11b</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Z1. 天文データ科学の新しい潮流

3月17日(水) 午後・A会場		10:42	Z113a Understanding Galaxy Evolution through Machine Learning Suchetha Cooray (Nagoya University)
13:00	Z101a 機械学習を使用したすばる Hyper Suprime-Cam 超新星のタイプ分類 高橋一郎(東北大学)	10:54	Z114a 銀河分布のトポロジー解析 河野海(名古屋大学)
13:12	Z102a 深層学習による欠損データを含む測光的赤方偏移推定 西澤淳(名古屋大学)	11:06	Z115a 銀河画像の高解像度化: 圧縮センシングを用いた PSF の逆畳み込み 村田一心(国立天文台)
13:24	Z103a 機械学習による遠方銀河の形態パラメータ推定 II 馬屋原拓也(北見工業大学)	11:18	Z116a サブミリ波超解像イメージングで空間分解した活動銀河 NGC1068 の中心核構造 戸上陽平(名古屋大学)
13:36	Z104a Subaru Hyper Suprime Cam での重力レンズノイズ除去のための深層学習 白崎正人(国立天文台/統計数理研究所)	3月18日(木) 午後・A会場	
13:48	Z105a 深層学習 VAE による X 線分光観測からの特徴抽出 岩崎啓克(立教大学)	13:00	Z117a Analysis of Integral Field Spectroscopic Data as a High-Dimensional Low-Sample Size Data Problem 竹内努(名古屋大学)
14:00	Z106r 深層学習の現在: 問題解決の方法論として 岡谷貴之(東北大学/理化学研究所)	13:12	Z118a 次世代大型サブミリ波望遠鏡の分光観測に向けたデータ科学の応用 谷口暁星(名古屋大学)
3月18日(木) 午前・A会場		13:24	Z119a 情報理論を用いた突発現象の追跡観測に関する意思決定の自動化 植村誠(広島大学)
09:30	Z107a GALAXY CRUISE と機械学習 田中賢幸(国立天文台)	13:36	Z120a MCMC 法における尤度計算量の削減手法 服部公平(統計数理研究所)
09:42	Z108a cGAN を用いた輝線強度マップからのシグナル抽出 森脇可奈(東京大学)	13:48	Z121r マルコフ連鎖モンテカルロ法—その特徴, 歴史, 発展 伊庭幸人(統計数理研究所)
09:54	Z109a 機械学習アルゴリズムを用いた Near-Far 問題の解法 藤田真司(大阪府立大学)	14:48	summary
10:06	Z110a CNN による大質量星形成領域に付随する星間ガス構造同定モデルの開発 上田翔汰(大阪府立大学)		
10:18	Z111a 宇宙の大規模構造エミュレーション技術 西道啓博(京都大学)		
10:30	Z112a Application of Machine Learning Classification Methods to the Study of Galaxy Evolution 施文(名古屋大学)		

Z2. 次世代Very Large Array (ngVLA) で切り拓く新しい天文学の地平

3月19日(金) 午前・A会場		3月19日(金) 午後・A会場	
09:30	Z201r 原始惑星系円盤から銀河系内、系外銀河に至る様々な階層での星間化学 坂井南美(理化学研究所)	13:00	Z214r 原子雲・分子雲を貫く星形成 福井康雄(名古屋大学)
09:48	Z202a ngVLAで探る、原始星エンベロープと円盤の分子組成に対するX線放射の影響 野津翔太(理化学研究所)	13:18	Z215a 電波干渉計で探るフィラメント状分子雲の形成機構 佐野栄俊(国立天文台)
10:00	Z203a Nitrogen Fractionation in the Protoplanetary Disk around TW Hya Lee, Seokho(NAOJ)	13:30	Z216a ngVLAで観る大質量形成:近接連星と熱い円盤 田中圭(国立天文台)
10:12	Z204a 原始星円盤におけるダスト成長前線によるリング形成 大橋聡史(理化学研究所)	13:42	Z217a ngVLAを用いた大質量原始星の直接撮像の検討 元木業人(山口大学)
10:24	Z205a DM Tau 周囲のリング状原始惑星系円盤における弱い非軸対称構造 武藤恭之(工学院大学)	13:54	Z218a 高分解能 $\text{H}\alpha$ /[C] / CO 観測による強乱流場中における分子雲形成機構の解明 榎谷玲依(慶應義塾大学)
10:36	Z206a 周惑星円盤の ngVLA 観測のモデル計算:ダストの性質への制限 胡博超(国立天文台/東京工業大学)	14:06	Z219r ngVLA時代の銀河・ブラックホール進化研究への期待 泉拓磨(国立天文台/総合研究大学院大学)
10:48	Z207r ngVLAで観る重力波対応天体 仏坂健太(東京大学)	14:24	Z220a ngVLAによる遠方銀河の遠赤外線微細構造輝線の観測可能性 橋本拓也(筑波大学)
11:06	Z208a Gamma-Ray Burst and Transient Sciences with ngVLA 浦田裕次(National Central University, Taiwan)	14:36	Z221a 多階層連結 AGN モデルと ngVLA で探る超巨大ブラックホールの形成・進化 川勝望(呉工業高等専門学校)
11:18	Z209a 超新星からの電波放射:未知の恒星終末期進化の解明に向けて 前田啓一(京都大学)	14:48	Z222a ngVLAによる太陽・太陽圏研究と系外宇宙天気研究の新展開 下条圭美(国立天文台)
11:30	Z210b ngVLAを用いたスノーライン前後の原始惑星系円盤構造の模擬観測 奥住聡(東京工業大学)		
11:30	Z211b ngVLAによる原始惑星系円盤の NH_3 スノーラインの観測 古家健次(国立天文台)		
11:30	Z212b ngVLAの偏光観測で探る原始惑星系円盤中のダスト成長 植田高啓(国立天文台)		
11:30	Z213b ngVLAの概要と目指すサイエンス 百瀬宗武(茨城大学)		

Z3. 富岳時代のシミュレーション天文学

3月16日(火) 午前・A会場		3月16日(火) 午後・A会場	
09:30	Z301r スーパーコンピューター「富岳」と宇宙物理・惑星科学 牧野淳一郎(神戸大学)	13:00	Z311a AMR フレームワーク Athena++ の設計と今後の展望 富田賢吾(東北大学)
09:54	Z302a 富岳時代の準解析的銀河・AGN 形成モデル 大木平(千葉大学)	13:12	Z312a 分子雲形成シミュレーションで探る重力的に束縛された高密度クランプの統計的性質 岩崎一成(国立天文台)
10:06	Z303a 機械学習による宇宙大規模構造形成エミュレータの構築 田中賢(京都大学)	13:24	Z313a 惑星系 N 体計算コード GPLUM の開発 石城陽太(東京大学)
10:18	Z304a 富岳による宇宙論的ニュートリノの Vlasov シミュレーション 吉川耕司(筑波大学)	13:36	Z314a 現実的な合体条件下での岩石微惑星の集積 柴田雄(国立天文台)
10:30	Z305a 高赤方偏移 ($z \geq 10$) での暗黒物質の対消滅のブーストファクターの計算 高橋龍一(弘前大学)	13:48	Z315a 原始惑星系円盤の高レイノルズ数乱流中でのダスト成長 石原卓(岡山大学)
10:42	Z306r Gaia/JASMINE 時代の銀河系考古学のための数値シミュレーション 河田大介(MSSL, UCL)	14:00	Z316a 輻射輸送方程式を解く GR-RMHD コード INAZUMA によるブラックホール降着流シミュレーション 朝比奈雄太(筑波大学)
11:06	Z307a ASURA-FDPS による銀河形成シミュレーション: 富岳向けチューニングの現状 斎藤貴之(神戸大学)	14:12	Z317a 三次元空間における重力崩壊型超新星のボルツマン方程式によるニュートリノ輻射流体計算 岩上わかかな(早稲田大学)
11:18	Z308a 銀河形成シミュレーションで探る r プロセス元素に富んだ星の動力学的性質 平居悠(理化学研究所)	14:24	Z318a S_N 法を用いたボルツマン輻射流体コードによる高速回転星の重力崩壊シミュレーション 原田了(東京大学)
11:30	Z309a Toward simulations of globular cluster formation 藤井通子(東京大学)	14:36	Z319a 一般相対論的ボルツマン輻射流体計算による原子中性子星冷却 赤穂龍一郎(早稲田大学)
11:42	Z310a The 3 million simulations of globular clusters using Fugaku computer Long Wang (The University of Tokyo)	14:48	Z320a CANS+ による AGN ジェット伝播の高空間分解能 MHD 数値実験 大村匠(九州大学)
		15:00	Z321a 「富岳」における高エネルギー粒子加速研究と PIC シミュレーション 松本洋介(千葉大学)
		15:12	Z322a 微視的磁場増幅過程を解像した超新星衝撃波による宇宙線加速シミュレーション 井上剛志(名古屋大学)

M. 太陽

3月17日(水) 午前・A会場		3月18日(木) 午前・G会場	
09:30	Z323r 富岳で実現する太陽の超大規模数値シミュレーション 堀田英之(千葉大学)	09:30	M01a 日米共同・太陽フレア X線集光撮像分光観測ロケット実験 FOXSI-4 (概要) 成影典之(国立天文台)
09:54	Z324a 太陽対流層 - コロナ連結磁気流体シミュレーションによる超巨大フレア発生条件解明の展望 金子岳史(名古屋大学)	09:42	M02a SUNRISE-3 大気球太陽観測実験: 高精度近赤外線偏光分光装置 SCIP による観測制御の検証 大場崇義(宇宙航空研究開発機構)
10:06	Z325a PSP時代の太陽風乱流シミュレーション 庄田宗人(国立天文台)	09:54	M03a Solar-C(EUVST)/SoSpIMの開発状況と科学課題の検討 渡邊恭子(防衛大学校)
10:18	Z326r 火星衛星探査計画 MMX とシミュレーション天文学 倉本圭(北海道大学)	10:06	M04a 太陽観測用ニオブ酸リチウム近赤外狭帯域フィルターの開発 末松芳法(国立天文台)
10:42	Z327a マントル対流の数値モデリング: 月から地球まで、さらにスーパー地球まで 亀山真典(愛媛大学)	10:18	M05a ニュールネットワークを用いた静穏領域の水平磁場推定 正木寛之(千葉大学)
10:54	Z328a 火星大気大循環の全球非静力学高解像度シミュレーションに向けて 櫻村博基(神戸大学)	10:30	M06a 畳み込みニューラルネットワークを用いた水平速度場診断手法の開発 石川遼太郎(総合研究大学院大学/国立天文台)
11:06	Z329a 高解像度ガス惑星大気シミュレーションに向けたスペクトル変換ライブラリと回転球殻非弾性対流モデルの開発 竹広真一(京都大学)	10:42	M07a Mask R-CNN を用いた活動領域の検出 小松耀人(新潟大学)
11:18	議論	10:54	M08a 深層学習を用いた黒点の成長予測モデル構築 大沼伊織(新潟大学)
		11:06	M09b 差動回転の自転速度・解像度への依存性の調査 堀田英之(千葉大学)
		11:06	M10b 機械学習を用いたフレアループ長の推定 西本将平(防衛大学校)
		11:06	M11b 太陽フレア放射スペクトルとデリンジャー現象の関係 渡邊恭子(防衛大学校)
		11:18	M12b 2020年10月15日の GOES B-CLASS イベントにおける彩層~光球ダイナミクスの時間変動 當村一朗(大阪府立大学工業高等専門学校)
		11:30	質疑応答(10分)

3月18日(木) 午後・G会場		3月19日(金) 午前・G会場	
13:00	M13a 太陽光球での磁場要素追跡を用いた磁場強度・磁束と差動回転関係の研究 高畑憲(千葉大学)	09:30	M23a 狭帯域チューナブル・フィルターを用いた太陽彩層観測 宮良碧(茨城大学)
13:12	M14a 太陽光球リム境界近傍の表面構造がドップラー速度の観測に与える影響 森塚章恵(東京大学/国立天文台)	09:42	M24a 特徴量の機械学習を用いた太陽表面X線画像からのコロナ質量放出予測 正島涼希(関西学院大学)
13:24	M15a 太陽表面の磁場構造のサイズ分布 桜井隆(国立天文台)	09:54	M25a フィラメント噴出の三次元速度とコロナ質量放出との関係について 関大吉(京都大学)
13:36	M16a サイクル24にわたる「ひので」高解像度観測でみた太陽極域磁場の振る舞い 谷竜太(東京大学)	10:06	M26a 太陽フレア多クラス発生予測への深層学習技法の応用 西塚直人(情報通信研究機構)
13:48	M17a ひのでで観測されたサイクル24中の太陽極域磁場の変動 塩田大幸(情報通信研究機構)	10:18	M27a Magnetic Reconnection in a Sheared Magnetic Flux Tube: Slippage versus Tearing 国吉秀鷹(東京大学)
14:00	M18a アルフベン波駆動の太陽風モデルにおける音波の効果について 清水公彦(東京大学)	10:30	M28a NoRHとMUSERで同時観測された2015年11月22日の微小フレア2 増田智(名古屋大学)
14:12	M19a Numerical study of shock heating of the magnetic chromosphere by realistic simulation Yikang Wang (The University of Tokyo)	10:42	M29a 活動領域NOAA12673における連続するM5.5、M4.2フレア発生機構の比較 山崎大輝(京都大学)
14:24	M20a 太陽の活動度の差を考慮したCa II K線による紫外線放射の推定 田中宏樹(京都大学)	10:54	M30a 太陽ジェット現象におけるFIP効果の時間的・空間的変動の研究 井上大輔(京都大学)
14:36	M21a Lyman線のスペクトル線形状と彩層大気構造に関する研究 長谷川隆祥(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	11:06	M31a SMART/SDDIで観測される小スケールのblue/red shift現象の詳細解析 古谷侑士(京都大学)
14:48	M22a SCIP/Sunrise 3での波動観測について 松本琢磨(国立天文台)	11:18	M32a 超小型衛星を用いた太陽フレアからの熱的・非熱的放射の時間発展の研究 III 長澤俊作(東京大学 Kavli IPMU)
15:00	質疑応答(10分)	11:30	質疑応答(10分)

N. 恒星・恒星進化

3月19日(金) 午後・G会場		3月18日(木) 午後・B会場	
13:00	M33a M1.1 太陽フレアにおける彩層蒸発プラズマの速度・電子密度診断 神原永昌(総合研究大学院大学)	13:00	N01a Starspot mapping with parallel tempering for TESS data of M-type flare stars 幾田佳(京都大学)
13:12	M34a 全天 X線監視装置 MAXI を用いた巨大恒星フレアの統計的研究 佐々木亮(中央大学)	13:12	N02a 多波長モニタ観測で探る M 型星フレアのバルマー線の輝線輪郭非対称性 III 野津湧太(コロラド大学)
13:24	M35a 多波長同時観測で迫るおひつじ座 UX 星で生じた巨大フレアの特徴 北古賀智紀(中央大学)	13:24	N03a 太陽型星 EK Dra の長時間スーパーフレアの H α 線分光・可視測光観測 行方宏介(京都大学)
13:36	M36a プラズマ粒子 (PIC) シミュレーションのための高精度 Boris 型数値解法 銭谷誠司(神戸大学)	13:36	N04a Sun-as-a-star Multi-wavelength Observations as a Milestone for Characterization of Stellar Active Regions 鳥海森(宇宙航空研究開発機構)
13:48	M37a 磁化プラズマにおける電磁応カテンソルと運動量(Kelvin 力と E \times B ドリフト) 柴崎清登(太陽物理学研究所)	13:48	N05a Kepler 全データの解析による太陽型星スーパーフレアの統計的性質 岡本壮師(京都大学)
14:00	質疑応答(10分)	14:00	N06a 近赤外高分散分光による近傍 M 型矮星の元素組成比の調査 石川裕之(総合研究大学院大学/国立天文台)
		14:12	N07a 2次元高速回転星の擬似的進化計算 小形美沙(早稲田大学)
		14:24	N08a α^1 Her からの磁気駆動風の安定性と変動 保田悠紀(北海道大学)
		14:36	N09a W UMa 型連星 A タイプにおける質量交換率と質量損失率の割合の試算 高妻真次郎(中京大学)
		14:48	N10b 近赤外 Mg I 輝線を用いた若い恒星の彩層活動の調査 山下真依(兵庫県立大学)
		14:48	N11b 近傍 Ia 型超新星の intrinsic color & dust extinction の多様性 有馬宣明(東京大学)
		15:00	質疑応答(10分)

3月19日(金) 午前・B会場		3月19日(金) 午後・B会場	
09:30	N12a AKARI,WISE による AGB 星の中間赤外線長期変光調査 橘健吾(東京大学)	13:00	N22a ブラックホールによる白色矮星の潮汐破壊現象からの観測兆候と、中間質量ブラックホールへの制限 川名好史朗(東京大学)
09:42	N13a Tomo-e Gozen による狭帯域フィルター金属欠乏星探査およびなゆた望遠鏡 MALLS による中分散分光追観測 岩崎巧実(甲南大学)	13:12	N23a Hilbert-Huang 変換を用いた重力崩壊型超新星爆発由来の重力波データ解析 武田芽依(大阪市立大学)
09:54	N14a LAMOST/すばる望遠鏡による金属欠乏星組成調査 I. 炭素組成と炭素過剰天体 青木和光(国立天文台)	13:24	N24a 回転する大質量星の重力崩壊に伴うニュートリノ駆動爆発 藤林翔(Max Planck Institute for Gravitational Physics)
10:06	N15a 天の川銀河のミラ型変光星と漸近巨星分枝星の進化の金属量依存性 II 浦郷陸(鹿児島大学)	13:36	N25a Light curve modeling of the extremely bright supernova 2016aps 鈴木昭宏(国立天文台)
10:18	N16a WR125 の中間赤外線分光観測 - 天体のスリット上での捕獲位置による分光データへの影響とその補正 遠藤いずみ(東京大学)	13:48	N26a 超新星親星の非球対称構造が衝撃波に及ぼす影響 中村航(福岡大学)
10:30	N17a すばる望遠鏡 COMICSによる WR137の観測 道藤翼(東京大学)	14:00	N27a 星周物質との衝突で光る超新星のスペクトルエネルギー分布 津名大地(東京大学)
10:42	N18a 伴星を持たない水素欠乏超新星の親星の起源 平井遼介(Monash 大学)	14:12	N28a 原始中性子星への質量降着を伴うニュートリノ駆動風モデルの構築と ^{56}Ni 生成量への示唆 澤田涼(京都産業大学)
10:54	N19a X線天文衛星「XMM-Newton」による超新星残骸 G292.0+1.8 の観測 ～ Al He α 輝線の初検出とそれに基づく親星の質量推定～ 佐藤諒平(埼玉大学)	14:24	質疑応答(10分)
11:06	N20a 無回転大質量星コアの重力崩壊における磁場強度依存性 松本仁(福岡大学)		
11:18	N21a 外層が剥ぎ取られた星の超新星爆発と II 型超新星爆発における ^{56}Ni 質量の相違は観測バイアスで説明できるか 大内竜馬(京都大学)		
11:30	質疑応答(10分)		

P1. 星・惑星形成

P1. 星・惑星形成(星形成)

3月17日(水) 午前・F会場		3月17日(水) 午後・F会場	
10:30	P101a ALMA 観測による高解像度 3次元データ解析への機械学習の導入 大屋瑤子(東京大学)	13:00	P106a ALMA ACA サーベイで探る Corona Australis 領域の星形成(2) 山崎康正(大阪府立大学)
10:42	P102a 速度構造を含めた 3次元データにおける Principal Component Analysis 大小田結貴(東京大学)	13:12	P107a VERA と ALMA を用いた大質量原始星 S255 NIRS 3 における水メーザー観測 廣田朋也(国立天文台)
10:54	P103a Star Formation Feedback to a Parent Cloud: The Elias 29 Case 雑賀恵理(東京大学)	13:24	P108a Salt, Hot Water, and Silicon Compounds Tracing Massive Twin Disks Yichen Zhang (RIKEN)
11:06	P104a 深層学習による分子雲コアの新しい同定法の開発 吉田大輔(名古屋大学)	13:36	P109a NLTE rovibrational analysis of hot disk tracers in the massive binary protostellar system IRAS 16547-4247 Ziwei E. Zhang (RIKEN)
11:18	P105a ALMA ACA サーベイで探る Taurus 領域分子雲コア進化の統計的研究(5): 若い連星GV Tauが付随する分子雲コアの内部構造 原田直人(九州大学)	13:48	P110a Chemical evolution of Galactic high-mass star-forming cores Sarolta Zahorecz (Osaka Prefecture University/NAOJ)
11:30	質疑応答(10分)	14:00	P111a ALMA による原始連星系天体 NGC 2264 CMM3 の高分解能観測 柴山良希(東京大学)
		14:12	P112a Gaia データを用いたオリオン大星雲星団の解析 西亮一(新潟大学)
		14:24	P113b 星形成過程におけるダストガス質量比の再検討 古賀駿大(九州大学)
		14:24	P114b 2mm 帯受信機 B4R/LMT50 m 望遠鏡搭載による Orion-KL 領域試験観測の解析報告 米津鉄平(大阪府立大学)
		14:24	P115b Star Formation Signatures in the 70 μ m Dark High-mass Clump G23.477 森井嘉穂(東京大学/国立天文台)
		14:36	P116b 不規則に変光する YSO 候補天体の分光観測 八木恵(兵庫県立大学)
		14:36	P117b はえ座分子雲における褐色矮星・惑星質量天体の近赤外測光探査観測 大朝由美子(埼玉大学)

14:36	P118b へび座分子雲における若い超低質量天体の近赤外分光観測 大出康平(埼玉大学)	3月18日(木) 午前・F会場
14:48	P119b 銀河面における前主系列星の広域探査観測 竹内媛香(埼玉大学)	09:30 P122a VLA observations of ammonia lines towards a Class 0 protostar NGC1333 IRAS4A 大和義英(東京大学)
14:48	P120b Lupus IとR CrAにおける若い超低質量天体の近赤外測光探査 金井昂大(埼玉大学)	09:42 P123a PEACHES: Formation of CH ₃ CN in Class 0/I protostars Shaoshan Zeng (RIKEN)
14:48	P121b すばるHSCによる新たな褐色矮星の探査と銀河系構造の推定 坂本茉莉江(愛媛大学)	09:54 P124a ALMA observations of CH ₃ OH and HC ₃ N toward three low-mass young stellar objects in the Perseus region 谷口琴美(学習院大学)
15:00	質疑応答(10分)	10:06 P125a ALMA望遠鏡を用いたCH ₃ NH ₂ の探査と化学進化への示唆 鈴木大輝(アストロバイオロジーセンター)
		10:18 P126a BISTRO Project Status (9) Tetsuo Hasegawa (NAOJ)
		10:30 P127a サブミリ波を用いたおうし座分子雲コアL1521Fにおける磁場構造の観測的研究 深谷紗希子(鹿児島大学)
		10:42 P128a 分子雲コアの角運動量の起源および時間発展について 三杉佳明(名古屋大学)
		10:54 P129a Massive Core Formation in Magnetized, Turbulent, High-speed Colliding Clouds Nirmit Deepak Sakre (Hokkaido University)
		11:06 P130a 分子雲形成過程と多相星間媒質中での乱流星形成 小林将人(東北大学)
		11:18 P131a 数値シミュレーションで探る高密度コアと衝撃波の相互作用 木下真一(東京大学)
		11:30 質疑応答(10分)

P2. 星・惑星形成 (原始惑星系円盤)

3月18日(木) 午後・F会場		3月16日(火) 午前・F会場	
13:00	P132a 初期宇宙における星の質量関数とその進化：金属量依存性について 鄭昇明(東北大学)	09:30	P201a 原始惑星系円盤における HCO ⁺ 輝線の高空間分解能観測 相川祐理(東京大学)
13:12	P133a 低金属量星形成における宇宙背景放射の影響 小野遥香(東北大学)	09:42	P202a Resolving DCN/HCN towards five protoplanetary disks using the MAPS data Gianni Cataldi (NAOJ/The University of Tokyo)
13:24	P134a ミニハロー内の収縮する始原ガスコアにおける乱流の増幅 東翔(甲南大学)	09:54	P203a ALMA 超解像画像で探る T Tau 周囲の原始惑星系円盤の詳細構造 山口正行(東京大学/国立天文台)
13:36	P135a 低金属度環境における星周円盤の分裂と低質量星の形成 松木場亮喜(東北大学)	10:06	P204a へびつかい座円盤天体の超解像イメージング：I 円盤傾斜角と YSO 分類 川邊良平(国立天文台)
13:48	P136a 円盤分裂による多重星系形成の金属量依存性 島和宏(京都大学)	10:18	P205a スパースモデリングを用いた多波長電波観測における原始惑星系円盤の高解像度撮像 逢澤正嵩(李政道研究所)
14:00	P137a Ly α 輻射による原始ガス雲中での水素分子形成抑制効果の質量依存性 阿左美進也(筑波大学)	10:30	P206a ALMA多波長画像解析で探る TW Hya の原始惑星系円盤のスペクトル指数分布 塚越崇(国立天文台)
14:12	P138a Supermassive Star Formation in Magnetized Atomic-cooling Gas Cloud 平野信吾(九州大学)	10:42	P207a ALMA 望遠鏡を用いた SY Cha に付随する遷移円盤の観測的研究 折原龍太(茨城大学)
14:24	P139a Supermassive star formation in a massive cloud with H ₂ molecules 櫻井祐也(Kavli IPMU)	10:54	P208a 超低光度前主系列星 J162656.43-243301.5 周囲の transition disk の ALMA 観測 II 杉谷朱泉(鹿児島大学)
14:36	P140a モーメント法を用いた輻射流体シミュレーションによる星団形成の解明 福島肇(筑波大学)	11:06	P209a 銀河系外縁部における低金属量星生成領域 Sh 2-127 の近赤外深撮像 安井千香子(国立天文台)
14:48	P141a 超音速ガス流による初代星形成過程の系統的調査 沈有程(東京大学)	11:18	P210a 若い中質量星 HD 200775 の原始惑星系円盤に見られた光蒸発の兆候 加藤晴貴(京都産業大学)
15:00	P142a 星同士の詳細な合体条件の探求 桐原崇亘(甲南大学)		
15:12	質疑応答(10分)	11:30	質疑応答(10分)

3月16日(火) 午後・F会場		3月17日(水) 午前・F会場	
13:00	P211a 磁気円盤風および光蒸発による中質量星周りの原始惑星系円盤進化 福原修平(東京大学)	09:30	P221a 原始連星の周連星円盤における重力トルクと磁場による角運動量輸送 松本倫明(法政大学)
13:12	P212a 原始惑星系円盤光蒸発の輻射流体計算: 円盤の熱化学進化 駒木彩乃(東京大学)	09:42	P222a 周連星系円盤からのガス降着による、逆回転する原始惑星系円盤の形成 高石大輔(鹿児島大学)
13:24	P213a 輻射流体シミュレーションを用いたガシリッチデブリ円盤の始原ガス説の検証 仲谷峻平(理化学研究所)	09:54	P223a ダストガス2流体磁気流体力学シミュレーションコードの開発とその原始星形成過程への応用 塚本裕介(鹿児島大学)
13:36	P214a 原始惑星系円盤のダストリング構造中での永年重力不安定性 高橋実道(国立天文台)	10:06	P224a Athena++コードにおける軌道移流法の実装とシアリングボックスの改良 小野智弘(東京工業大学)
13:48	P215a ダスト成長が駆動する原始惑星系円盤の新しい不安定性 富永遼佑(名古屋大学)	10:18	P225a 輻射流体力学シミュレーションのためのオパシティ計算コードの開発II 廣瀬重信(海洋研究開発機構)
14:00	P216a ダストアグリゲイト間衝突による成長と破壊の質量比依存性 長谷川幸彦(東京大学)		
14:12	P217a 原始惑星重力下での原始惑星系円盤ガスの流れと小天体の衝突率 小林浩(名古屋大学)		
14:24	P218a 超木星質量の巨大ガス惑星によって形成される原始惑星系円盤のギャップ特性とそのパラメータ依存性 田中佑希(東北大学)		
14:36	P219a 降着を受ける原始ガス惑星 PDS 70b からの $H\alpha$ 放射に関する数値的研究 高棹真介(大阪大学)		
14:48	P220b WW Cha に付随する原始惑星系円盤の ALMA 観測 金川和弘(東京大学)		
15:00	質疑応答(10分)		

P3. 星・惑星形成(惑星系)

3月18日(木) 午後・H会場		14:48	P314b SonotaCo Network のデータを用いた各流星群における放射点の離散度調査 土屋智恵(国立天文台)
13:00	P301a ALMA で検出された海王星成層圏 HCN の帯状分布構造とその化学・物理 飯野孝浩(東京大学)	15:00	P315b SPART/ALMA電波望遠鏡により探る地球型惑星/金星の大気の化学的環境 前澤裕之(大阪府立大学)
13:12	P302a 月面地球照の近赤外観測で検出された海の偏光 高橋隼(兵庫県立大学)	15:12	質疑応答(10分)
13:24	P303a 崩壊彗星C/2019Y4(ATLAS)の偏光観測 古荘玲子(都留文科大学)	3月19日(金) 午前・H会場	
13:36	P304a 高離心率オールト雲天体の高精度軌道進化計算の結果について 船渡陽子(東京大学)	09:30	P316a 系外惑星のスペクトル・リトリーバルコードへの非平衡化学の導入 川島由依(理化学研究所)
13:48	P305a ダスト集合体の物質強度で探る太陽系小天体形成過程 辰馬未沙子(東京大学/国立天文台)	09:42	P317a スパースモデリングによる地球型系外惑星の表面組成の全球マッピング 桑田敦基(東京大学)
14:00	P306a 周巨大惑星における Liquid Water Belt4 : 土星系での検証 鴨川弘幸(防衛大学校)	09:54	P318a スーパーアースの巨大衝突における水素大気流出過程 黒崎健二(名古屋大学)
14:12	P307a 超巨大ブラックホールを周回する岩石・氷天体 planet の形成 和田桂一(鹿児島大学)	10:06	P319a 巨大衝突によって形成される惑星系の軌道構造の中心星質量依存性 III 星野遥(東京大学)
14:24	P308a パルサータイミング法を用いた長周期連星ブラックホール探査の提案 林利憲(東京大学)	10:18	P320a 進化する円盤中での岩石原始惑星からの TRAPPIST-1 系形成 荻原正博(国立天文台)
14:36	P309b 多波長トランジット測光観測による系外惑星大気の調査 石岡千寛(埼玉大学)	10:30	P321a 分光連星が持つ未知の周期変化する視線速度の起源 加藤則行(神戸大学)
14:36	P310b 太陽系外惑星 XO-2N b の近赤外線トランジット観測 平野佑弥(兵庫県立大学)	10:42	P322a 若い系外惑星の軌道傾斜角測定 平野照幸(東京工業大学)
14:36	P311b 偏光分光光度計によるスペクトルデータベースの作成 近藤綾香(兵庫県立大学)	10:54	P323a 惑星や褐色矮星の伴星が引き起こす固有運動の加速に着目した高コントラスト直接撮像探査 葛原昌幸(アストロバイオロジーセンター/国立天文台)
14:48	P312b すばる望遠鏡 HSC データを用いた既知太陽系小天体探査 大坪貴文(国立天文台)	11:06	P324a IRD-SSP による M 型星周りの惑星サーベイ : 2年目の観測状況 大宮正士(アストロバイオロジーセンター)
14:48	P313b 2019 年ふたご座流星群の多地点流星電波観測 石村周平(茨城大学)		

Q. 星間現象

11:18	P325a MuSCAT シリーズとすばる望遠鏡 IRD インテンシブ観測による TESS トランジット惑星候補のフォローアップ観測 成田憲保 (東京大学)	3月16日 (火) 午前・G会場	09:30	Q01a The Location of the Western Part of the Galactic Center Lobe Masato Tsuboi (JAXA)
11:30	質疑応答 (10分)		09:42	Q02a ペルセウス座分子雲領域の視線上に重なった二成分の磁場構造 土井靖生 (東京大学)
3月19日 (金) 午後・H会場			09:54	Q03a 銀河系中心領域における特異分子雲 “Tadpole” の空間速度構造 金子美由起 (慶應義塾大学)
13:00	P326a 重力マイクロレンズ法による惑星系の銀河系内分布への示唆 越本直季 (東京大学 / NASA Goddard Space Flight Center)		10:06	Q04a 銀河系中心部の Bania's Clump 2 における分子雲衝突の定量調査 松永健汰 (名古屋大学)
13:12	P327a <i>Roman</i> 衛星によるザララップ効果を用いた銀河中心領域の短周期惑星の検出 宮崎翔太 (大阪大学)		10:18	Q05a 原始大質量星候補 IRAS 05358+3543 の形成 山田麟 (名古屋大学)
13:24	P328a XMM-Newton 衛星による系外惑星 HD 189733b の大気密度分布の調査 森岡夏未 (奈良女子大学)		10:30	Q06a NRO Local Spur CO サーベイプロジェクト: こぎつね座 OB アソシエーションにおける巨大分子雲と星形成 河野樹人 (名古屋市科学館)
13:36	P329a ホットジュピターの大気蒸発過程における恒星風の影響 三谷啓人 (東京大学)		10:42	Q07a 大質量星形成領域 Sagittarius B2 (N1) の降着円盤と双極分子流における CH ₃ NCO の検出 出岡恭一 (東京理科大学)
13:48	質疑応答 (10分)		10:54	Q08a ASTE-10m 望遠鏡による 500 GHz [C I] 輝線の銀河系中心全面イメージング: 超新星残骸 Sgr A East に付随する [C I]-bright Ring の発見 田中邦彦 (慶應義塾大学)
			11:06	Q09a ALMA ACA 観測で明らかにする ρ Oph A PDR における [C I] 放射の 2 つの起源 山岸光義 (宇宙航空研究開発機構)
			11:18	Q10b NH ₃ 分子輝線と赤外線に基づく異なる星形成段階の星間雲の温度分布 山賀響 (上越教育大学)
			11:30	質疑応答 (10分)

Q. 星間現象

3月16日(火) 午後・G会場		3月17日(水) 午前・G会場	
13:00	Q11a Kepler 超新星残骸における星周物質の非等方な空間分布 春日知明(東京大学)	09:30	Q21a 中性鉄輝線、電離率、ガンマ線を使った宇宙線の分子雲への浸透の解明 藤田裕(東京都立大学)
13:12	Q12a 過電離プラズマ成因解明に向けた超新星残骸 IC 443 の空間分解解析 尾近洗行(京都大学)	09:42	Q22a 超新星残骸 W49B とその近傍分子雲からのガンマ線放射の研究 大塚駿平(立教大学)
13:24	Q13a X線天文衛星「すざく」を用いた超新星残骸 W49B の再結合優勢プラズマの観測 鈴木那梨(奈良女子大学)	09:54	Q23a 超新星残骸 RX J1713.7-3946 におけるガンマ線発生機構:陽子起源・電子起源ガンマ線の分離 福井康雄(名古屋大学)
13:36	Q14a 超新星残骸 W28 における過電離プラズマの生成機構の研究 火物瑠偉(奈良教育大学)	10:06	Q24a Chandra 衛星の観測を用いた W50/SS 433 西側領域における粒子加速の研究 佳山一帆(京都大学)
13:48	Q15a 付随するコンパクト天体の運動を用いた超新星残骸の年齢推定の信頼性評価 鈴木寛大(東京大学)	10:18	Q25a 超新星残骸 HB9 における衝撃波粒子加速の時間発展の測定 岡知彦(京都大学)
14:00	Q16a ティコの超新星残骸における数年単位での電子温度上昇領域の発見 松田真宗(京都大学)	10:30	Q26a 超新星残骸の垂直衝撃波領域における宇宙線の加速と逃走 上島翔真(東京大学)
14:12	Q17a 超新星残骸 J0453.6-6829 における He 様酸素からの強い禁制線の発見 小柴鷹介(京都大学)	10:42	Q27a 非一様媒質中を伝播する衝撃波と宇宙線加速 横山将汰(東京大学)
14:24	Q18a NuSTAR 衛星による RX J0852.0-4622 の北西衝撃波の空間分離スペクトル解析 佐々木寅旭(埼玉大学)	10:54	Q28a 宇宙線軽元素のハードニングの起源 川中宣太(京都大学)
14:36	Q19b 銀河中心超新星残骸 Sgr A East の XRISM 衛星でのプラズマ診断の検討 内山秀樹(静岡大学)	11:06	Q29a Pevatron の X 線・ガンマ線ペアハロー 井上進(文教大学/理化学研究所)
14:36	Q20b ALMA によるガンマ線超新星残骸 RX J1713.7-3946 の観測 佐野栄俊(国立天文台)	11:18	質疑応答(10分)
14:48	質疑応答(10分)		

R. 銀河

3月17日(水) 午後・G会場		3月17日(水) 午前・C会場	
13:00	Q30a ALMA ACAによる小マゼラン雲超広域CO探査(1): CO分子雲の大局的分布 徳田一起(大阪府立大学/国立天文台)	09:30	R01a 活動銀河 NGC 7469 における高解像度 CO 分子・C 原子輝線観測 I. X-ray Dominated Region の特性に基づくサブミリ波帯熱源診断 泉拓磨(国立天文台/総合研究大学院大学)
13:12	Q31a ALMA ACAによる小マゼラン雲超広域CO探査(2): CO分子雲の性質 大野峻宏(名古屋大学)	09:42	R02a 活動銀河 NGC 7469 における高解像度 CO分子・C原子輝線観測 II. AGN周りと星形成領域のガスの物理化学状態の比較 中野すずか(総合研究大学院大学/国立天文台)
13:24	Q32a ALMAを用いた大マゼラン雲 N159S 領域の観測: フィラメント状分子雲の分布 南大晴(大阪府立大学)	09:54	R03a スターバースト銀河 NGC1808 の [C I] 観測: ガストレーサーとしての有用性の検証 保坂智哉(筑波大学)
13:36	Q33a IRSF 近赤外線減光マップで得られた大マゼラン雲 HI リッジ領域のダストの3次元構造 古田拓也(名古屋大学)	10:06	R04a ALMA discovers a starburst-driven molecular outflow in NGC 1482 Dragan Salak (University of Tsukuba)
13:48	Q34a 「すざく」と XMM-Newton 衛星の多点同時観測で探る地球周辺の太陽風電荷交換 X 線の空間分布 伊師大貴(東京都立大学)	10:18	R05a NGC 253 中心部における非差動回転ガス成分の起源 小西諒太郎(大阪府立大学)
14:00	Q35a On the Very Hot Phase of the Milky Way Circumgalactic Medium 釜谷秀幸(防衛大学校)	10:30	R06a Discovery of a [C I]-faint, CO-bright Galaxy: ALMA Observations of the Merging Galaxy NGC 6052 道山知成(カブリ天文天体物理学研究所(KIAA))
14:12	Q36a 星形成史の解明に向けた磁場・宇宙線が駆動する銀河風についての理論研究 霜田治朗(名古屋大学)	10:42	R07a 相互作用銀河 NGC6240 の CO 輝線比と星間ガスの物理状態について 末木里美(日本女子大学)
14:24	質疑応答(10分)	10:54	R08a 銀河重力相互作用下における分子ガス中心集中度 三浦飛未来(明星大学)
		11:06	R09b Whole disk mapping of molecular clouds in M83 廣田晶彦(国立天文台)
		11:06	R10b Atacama Compact Array による渦巻銀河 M33 の ^{12}CO , ^{13}CO $J=2-1$ 広域観測(2) 小西亜侑(大阪府立大学)
		11:06	R11b The enhancement of dense gas star formation efficiency in merger remnants 植田準子(国立天文台)

11:18	R12b	渦状銀河の擬似観測における非等方乱流磁場の効果 田嶋裕太(九州大学)	3月17日(水) 午後・C会場
11:18	R13b	介在銀河による偏波解消の数値シミュレーション 大前陸人(九州大学)	
11:30		質疑応答(10分)	
	13:00	R14a	Spatially and spectrally resolved HCN/HCO ⁺ ratios in ultraluminous and luminous infrared galaxies from the CON-quest sample 西村優里(東京大学/国立天文台)
	13:12	R15a	NGC 3627 において同定された GMC の物理状態と SFE 多様性の関係 柴田和樹(筑波大学)
	13:24	R16a	銀河内部における分子雲衝突速度の環境依存性と星形成活動との関係 前田郁弥(京都大学)
	13:36	R17a	NGC 3627 の大局磁場ベクトル構造と星円盤の渦状腕の関係 藏原昂平(鹿児島大学)
	13:48	R18a	渦状腕の定量的分類による腕の本数と銀河パラメータの関係 赤堀美桜(北海道大学)
	14:00	R19a	銀河渦状腕中の星のエピサイクル位相同期 III 吉田雄城(東京大学)
	14:12	R20a	Gaia による最新の位置天文観測と天の川銀河 N 体シミュレーションの比較 朝野哲郎(東京大学)
	14:24	R21a	アンドロメダ銀河の広がった X 線放射 I: 放射メカニズム 石塚雅身(東京理科大学)
	14:36	R22a	アンドロメダ銀河の広がった X 線放射 II: 重元素組成比 角田祐希(東京理科大学)
	14:48	R23a	Cherenkov Telescope Array による星形成銀河からのガンマ線検出の見込み 下野直弥(東京大学)
	15:00	R24a	Mining strong lensing surveys Anton Timur Jaelani (Kindai University)
	15:12		質疑応答(10分)

S. 活動銀河核

3月16日(火) 午前・C会場		3月16日(火) 午後・C会場	
09:30	S01a State Transition of SMBH Accretion Studied with X-ray and UV Monitoring 野田博文(大阪大学)	13:00	S12a Hungry black hole: 銀河衝突による AGN の活動停止と duty cycle との関係 三木洋平(東京大学)
09:42	S02a AGN における準周期的な短時間変動の 3次元大局的輻射磁気流体シミュレーション 五十嵐太一(千葉大学)	13:12	S13a クランピートーラスモデルの適用による活動銀河核の中心構造の統一理解 小川翔司(京都大学)
09:54	S03a VLBI インバンドファラデー回転を用いた狭輝線セIFAート 1 型銀河 1H0323+342 の中心核領域の探査 高村美恵子(東京大学/国立天文台)	13:24	S14a 硬 X 線観測で探る超 / 高光度赤外線銀河中の AGN の構造と降着機構の進化 山田智史(京都大学)
10:06	S04a Circinus 銀河中心核の空間的に広がった鉄輝線放射領域の詳細解析 澤上拳明(大阪大学)	13:36	S15a 超高速アウトフローと近赤外 [Fe II]/[P II] 輝線強度比との関係 水本岬希(京都大学)
10:18	S05a Fe-K α 輝線反響マッピング法を用いた NGC 3516 活動銀河核構造の研究 峯田大靖(大阪大学)	13:48	S16a merger driven DOGs の形成と進化 油谷直道(鹿児島大学)
10:30	S06a AGN 反響マッピング応答関数のベイズ推定 小久保充(東北大学)	14:00	S17a SXDF の多波長データを用いた $z \sim 1.4$ における超巨大ブラックホールと銀河の共進化の研究 瀬戸口健太(京都大学)
10:42	S07a CO 振動回転遷移吸収線の成分分離による IRAS 08572+3915 AGN トーラス内部構造の研究 大西崇介(東京大学)	14:12	S18a ガンマ線を発する電波銀河の X 線統計解析(2) 眞武寛人(広島大学)
10:54	S08a AGN トーラス内部の CO ガスの励起機構と吸収線形成の理論 松本光生(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	14:24	S19a Cygnus A ホットスポットの赤外線スペクトルの折れ曲がりを用いた磁場推定 砂田裕志(埼玉大学)
11:06	S09a 超高光度赤外線銀河 IRAS 17208-0014 の深く埋もれた中心核の構造 馬場俊介(国立天文台)	14:36	S20a Swift/BAT と Fermi/LAT を用いた硬 X 線、ガンマ線のカタログマッチ 辻直美(理化学研究所)
11:18	S10b NGC1068 トーラスにおける逆回転コアの形成過程 齊部和樹(鹿児島大学)	14:48	S21a MeV ガンマ線観測気球実験 SMILE-2+ による系外拡散ガンマ線観測 高田淳史(京都大学)
11:18	S11b Subaru/HSC 深撮像観測による NGC 1068 のマイナーマージャーの形態的証拠 川瀬真喜子(東北大学)	15:00	S22a EHTC はなぜ $40 \mu\text{s}$ サイズのリング像を誤って得たか? - DIFMAP チームの不適切なデータ解析について 三好真(国立天文台)
11:30	質疑応答(10分)	15:12	質疑応答(10分)

T. 銀河団

U. 宇宙論

3月18日(木) 午前・E会場		3月18日(木) 午後・E会場	
09:30	T01a ひとみ衛星とすざく衛星を統合したペルセウス銀河団からの暗黒物質由来の輝線探索 福一誠(立教大学)	13:00	U01a 重力場中における光の全曲がり角の新たな定義と宇宙定数による光の曲がりへの応用 荒木田英禎(日本大学)
09:42	T02a ケンタウルス座銀河団中心領域における高温ガスの元素組成比 福島光太郎(東京理科大学)	13:12	U02a 銀河スピン分布 III: SDSS 銀河サンプルの双極子異方性 家正則(国立天文台)
09:54	T03a 銀河団ガスの鉄のアバンドランスの赤方偏移依存性 米山理可子(東京理科大学)	13:24	U03a 重力レンズクエーサーで切り拓く小スケール宇宙論 - レンズングパワースペクトルの測定 - 井上開輝(近畿大学)
10:06	T04a 大質量銀河団サンプル(CLASH)を用いた冷却コアの系統解析 上田周太郎(ASIAA)	13:36	U04a 銀河・ハローの相関関数に現れる重力赤方偏移効果とその検出可能性 樽家篤史(京都大学)
10:18	T05a 銀河団のガス質量比 - ガス温度関係とそのばらつきについて 松下友亮(大阪大学)	13:48	U05a 光子 = 「始粒の交互配列二重鎖構造・自力走行体」のモデルで考える光子の屈折・反射・干渉挙動 藤原ケイ
10:30	T06a Optically-detected galaxy clusters in the AKARI North Ecliptic Pole field Ting-Chi Huang (SOKENDAI/JAXA)	14:00	U06a 原子核はどのようなものであるか、とその検証方法 小堀しづ
10:42	T07a Dilution 効果を軽減する弱重力レンズ銀河団検出法の開発とHSC サーベイ初年度データへの応用 浜名崇(国立天文台)	14:12	質疑応答(10分)
10:54	T08a HSC-SSP 領域内の可視光で選択された衝突銀河団のX線フォローアップ計画(3) 田中桂悟(金沢大学)		
11:06	T09a HSC-SSP サーベイ領域 Weak Lensing 銀河団のX線フォローアップ計画(7) 作田皓基(名古屋大学)		
11:18	T10a BARYON BUDGET IN THE XXL CLUSTERS III 秋野大知(広島大学)		
11:30	質疑応答(10分)		

V1. 観測機器 (電波)

3月18日(木) 午前・D会場		3月18日(木) 午後・D会場	
09:30	V101a Update on ALMA Operations and Development Program – Spring 2021 Alvaro Gonzalez (NAOJ)	13:00	V111a SKA プロジェクトへの参加計画 3 小林秀行(国立天文台)
09:42	V102a Demonstration of a Millimeter-wave Multibeam Receive Implemented with Superconducting MMICs Wenlei Shan (NAOJ)	13:12	V112a SKA プロジェクトに向けた科学検討 4 赤堀卓也(国立天文台)
09:54	V103a 325–500 GHz 帯誘電体材料評価システムの開発と評価 坂井了(国立天文台)	13:24	V113a SKA プロジェクトに向けた技術検討状況 河野裕介(国立天文台)
10:06	V104a パブリッククラウドを活用したアルマ望遠鏡データのアーカイブおよび解析処理の実証実験 森田英輔(国立天文台)	13:36	V114a 広帯域受信機のための高温超伝導マルチバンド帯域通過フィルタの検討 關谷尚人(山梨大学)
10:18	V105a The Next Generation Very Large Array – Spring 2021 伊王野大介(国立天文台)	13:48	V115a 広帯域フィードの開発(XIX: 終句) 氏原秀樹(情報通信研究機構)
10:30	V106a スパースモデリングによる画像合成と天体構造の関係 中村友音(日本女子大学)	14:00	V116a 大学 VLBI 連携観測事業の現状と将来計画 藤沢健太(山口大学)
10:42	V107a ミリ波補償光学の開発 V. 野辺山 45 m ミリ波望遠鏡における開口面干渉法波面センサの実証実験 田村陽一(名古屋大学)	14:12	V117a 高萩/日立 32m 電波望遠鏡の整備状況 2021A 米倉覚則(茨城大学)
10:54	V108a 南極テラヘルツ干渉計による原子輝線の観測計画 松尾宏(国立天文台)	14:24	V118a 臼田 64m 鏡を用いた L 帯 OH 輝線観測にむけた整備 山本宏昭(名古屋大学)
11:06	V109a テラヘルツ強度干渉計用光子計数型検出器のための 0.8 K 小型吸着式冷凍器の開発 丹羽綾子(筑波大学)	14:36	V119a 次世代太陽風観測のための汎用デジタルフェーズドアレイ装置の開発 岩井一正(名古屋大学)
11:18	V110a 超伝導ミキサ素子によるダストプラズマのテラヘルツ波ヘテロダイン分光診断 前澤裕之(大阪府立大学)	14:48	V120b 野辺山 45m 電波望遠鏡における 3 帯域同時 VLBI 観測システム構築と試験観測 堤稔喜(山口大学)
11:30	質疑応答(10分)	14:48	V121b VLBI 将来計画ワーキンググループ検討報告 新沼浩太郎(山口大学)
		14:48	V122b JAXA 深宇宙探査用 54m 地上局の完成 村田泰宏(宇宙航空研究開発機構)
		15:00	質疑応答(10分)

V1. 観測機器

3月19日(金) 午前・D会場		11:30	V135b 1.85 m 電波望遠鏡の新制御システム開発および CO($J=2-1,3-2$) の同時OTF観測 松本健(大阪府立大学)
09:30	V123a 野辺山 45m 鏡 7ビーム 3帯域両偏波受信機の開発 I: 目的 立松健一(国立天文台)	11:30	V136b FPGA のみで実現するシングルチップ電波分光計: 2. PYNQ-Z1 による分光計 (600 MSaps, 6 bit, 512 ch) の実装 西村淳(大阪府立大学)
09:42	V124a 野辺山 45m 鏡 7ビーム 3帯域両偏波受信機の開発 II: 受信機概要 長谷川豊(大阪府立大学)	11:42	質疑応答(10分)
09:54	V125a FPGA のみで実現するシングルチップ電波分光計: 1. 基礎概念と PYNQ-Z1 の性能限界: 60 GSaps 1 bit ADC の試験的な実装と評価 西村淳(大阪府立大学)	3月19日(金) 午後・D会場	
10:06	V126a FPGA のみで実現するシングルチップ電波分光計: 3. PYNQ-Z1 による分光計 (600 MSaps, 6 bit, 512 ch) の実証試験: 性能評価と試験観測 松本健(大阪府立大学)	13:00	V137a POLARBEAR 実験の観測における半波長板の特性評価 高倉理(Kavli IPMU)
10:18	V127a 1.85m電波望遠鏡による 230GHz,345GHz 帯CO同位体 6輝線同時観測のファーストライト 増井翔(大阪府立大学)	13:12	V138a POLARBEAR-2/Simons Array 実験 - 観測サイトでの観測機器準備状況 長谷川雅也(KEK 素粒子原子核研究所)
10:30	V128a SIS 受信機に付加される信号発生器(SG)由来の過剰雑音の原因 横山航希(大阪府立大学)	13:24	V139a POLARBEAR-2 実験における温度モニターデータを用いた較正手法の開発 田邊大樹(総合研究大学院大学)
10:42	V129a 南極 30cm サブミリ波望遠鏡計画 久野成夫(筑波大学)	13:36	V140a CMB 偏光観測衛星 LiteBIRD 概念検討の進展 小栗秀悟(宇宙航空研究開発機構)
10:54	V130a 南極 30cm サブミリ波望遠鏡 受信機広帯域化 瀧口風太(筑波大学)	13:48	V141a スケールモデルを用いた LiteBIRD 低周波望遠鏡の広視野での偏光角の測定 高倉隼人(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
11:06	V131a 南極 30cm サブミリ波望遠鏡用光学ポインティングシステムの開発 小山徹(筑波大学)	14:00	V142a 宇宙マイクロ波背景放射 B モード偏光観測衛星 LiteBIRD における宇宙線による影響の評価 富永愛侑(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
11:18	V132b 野辺山 45m 鏡 7ビーム 3帯域両偏波受信機の開発 III: 光学系 山崎康正(大阪府立大学)	14:12	V143a NASCO 計画の開発進捗: 受信機の改修による5ビーム同時観測の実現 松英裕大(名古屋大学)
11:18	V133b 野辺山 45 m 鏡 7ビーム 3帯域両偏波受信機の開発 IV: 導波管回路 増井翔(大阪府立大学)	14:24	V144a NASCO 計画の開発進捗: 試験観測による性能評価 西岡丈翔(名古屋大学)
11:18	V134b 南極 30cm サブミリ波望遠鏡のデジタル分光計の整備 八嶋裕(北海道大学)	14:36	V145b NASCO 計画の開発の進捗: データリダクションソフトの開発 山田麟(名古屋大学)

V2. 観測機器 (光赤外・重力波・その他)

14:36	V146b 多ビーム軸対称双反射鏡アンテナの中心ビーム開口能率 永井誠 (国立天文台)	3月16日 (火) 午前・D会場
14:36	V147b 多色サブミリ波カメラ用多段型多孔質膜赤外線フィルターの開発 長沼桐葉 (電気通信大学)	09:30 V201a SuMIRe-PFS[21]: プロジェクト概要と装置開発進捗状況まとめ 2021年春季 田村直之 (東京大学 Kavli IPMU)
14:48	質疑応答 (10分)	09:42 V202a MOIRCS に搭載された広帯域高効率な新グリズムの開発と性能評価 田中壺 (国立天文台)
		09:54 V203a 近赤外高精度視線速度測定のための地球大気吸収線の影響評価 笠木結 (総合研究大学院大学)
		10:06 V204a TMT 計画 - 進捗報告 臼田知史 (国立天文台)
		10:18 V205a TMT 計画 - 超大型望遠鏡本体の製造その2 齋藤正雄 (国立天文台)
		10:30 V206a TMT 計画 - 主鏡セグメントの量産 IV 大屋真 (国立天文台)
		10:42 V207a 東京大学アタカマ天文台 TAO 6.5m 望遠鏡計画 現地建設進捗状況 宮田隆志 (東京大学)
		10:54 V208a 木曾 Tomo-e Gozen の広域動画サーベイのデータ公開に向けた開発 酒向重行 (東京大学)
		11:06 V209a 光赤外線大学間連携事業の活動報告 山中雅之 (京都大学)
		11:18 V210b Hyper Suprime-Cam Legacy Archive 田中賢幸 (国立天文台)
		11:18 V211b 近赤外高分散分光器 ESPRIT 搭載の検出器駆動と冷却システムの開発 神原歩 (東北大学)
		11:30 質疑応答 (10分)

V2. 観測機器

3月16日(火) 午後・D会場		3月17日(水) 午前・D会場	
13:00	V212a 系外惑星トランジット観測のための可視4色同時撮像装置 MuSCAT3 の開発 福井暁彦(東京大学)	09:30	V223a SPICA(次世代赤外線天文衛星): 検討中止の経緯とこれまでの成果 山村一誠(宇宙航空研究開発機構)
13:12	V213a 南アフリカ望遠鏡用近赤外高分散分光器の開発: 装置概要と進捗状況 高橋葵(アストロバイオロジーセンター)	09:42	V224a 将来計画に向けた無冷媒冷却方式による赤外線望遠鏡の熱検討 鈴木仁研(宇宙航空研究開発機構)
13:24	V214a 高コントラスト観測システムテストベッド EXIST の開発2 米田謙太(北海道大学)	09:54	V225a 冷却宇宙望遠鏡を構成する低温要素技術開発 東谷千比呂(宇宙航空研究開発機構)
13:36	V215a 連星系における系外惑星探査のためのダークホール技術の開発 小池隆太(北海道大学)	10:06	V226a SPICA 搭載中間赤外線観測装置 SMI: Phase-A 技術開発・検討結果報告 和田武彦(宇宙航空研究開発機構)
13:48	V216a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA: 全体報告 阿久津智忠(国立天文台)	10:18	V227a 高感度太陽紫外線分光観測衛星 Solar-C (EUVST) の最新状況 清水敏文(宇宙航空研究開発機構)
14:00	V217a スペース重力波望遠鏡 LISA のための機器開発: フォトレシーバ 和泉究(宇宙航空研究開発機構)	10:30	V228b 中間赤外線アレイ検出器の高精度較正に向けた全素子のスペクトル感度評価 土川拓朗(名古屋大学)
14:12	V218a 超伝導カロリメータを用いた低温下の星間分子計測実験(2) 須田博貴(東京都立大学)	10:30	V229b 中間赤外線高感度・広帯域分光を実現するためのプリズム表面加工精度測定 榎木谷海(総合研究大学院大学/宇宙航空研究開発機構)
14:24	V219a LOPYUTA 計画 (Life-environmentology, Astronomy, and Planetary Ultraviolet Telescope Assembly) の検討 土屋史紀(東北大学)	10:30	V230b 中間赤外線用 Immersion grating の開発: 極低温での低抵抗 / 高抵抗型 CdZnTe の吸収係数評価 前嶋宏志(宇宙航空研究開発機構/東京大学)
14:36	V220a 深宇宙における宇宙背景放射観測に向けた可視光近赤外線望遠鏡の開発 佐野圭(金沢大学)	10:42	V231b Solar-C (EUVST) 主鏡アッセンブリ設計進捗 末松芳法(国立天文台)
14:48	V221b 金属蒸着アルミニウム鏡の異種金属接触腐食による反射率低下現象の検証 佐野圭(金沢大学)	10:42	V232b Solar-C (EUVST): EUVST 構造設計の進捗報告 原弘久(国立天文台)
14:48	V222b 宇宙赤外線背景放射観測ロケット実験 CIBER-2: 感度較正光源の評価 橋本遼(関西学院大学)	10:42	V233b Solar-C(EUVST) 光学設計の最新状況および公差解析結果報告 川手朋子(核融合科学研究所)
15:00	質疑応答(10分)	10:54	V234b Solar-C (EUVST) 海外機関担当コンポーネントの検討状況 永田伸一(京都大学)

V3. 観測機器 (X線・γ線)

10:54	V235b 超高精度太陽センサ「UFSS」: Solar-C (EUVST) に向けた試作品によるバイアス誤差補正法の検討 鄭祥子 (宇宙航空研究開発機構)	3月16日 (火) 午前・E会場	09:30	V301a 多重化コード化マスクの導入による MIXIM の有効面積拡大 (2) 石倉彩美 (大阪大学)
10:54	V236b SUNRISE-3 大気球太陽観測実験: 高精度近赤外線偏光分光装置 SCIP による高速偏光変調・偏光復調の同期精度の検証 久保雅仁 (国立天文台)		09:42	V302a 可視光用微小ピクセル CMOS 検出器の荷電粒子に対する応答評価 朝倉一統 (大阪大学)
11:06	V237b 国際大気球太陽観測実験 SUNRISE-3: 近赤外線偏光分光装置 SCIP の光学アライメント・光学性能評価 川畑佑典 (国立天文台)		09:54	V303a CMOS イメージセンサを用いた硬 X 線撮像偏光計の開発 IV 畠内康輔 (東京大学)
11:18	質疑応答 (10 分)		10:06	V304a HiZ-GUNDAM に向けた CMOS イメージセンサの高速読み出しシステムの開発 荻野直樹 (金沢大学)
3月17日 (水) 午後・D会場			10:18	V305a 高温塑性変形技術を用いた Si 湾曲ブラッグ反射型偏光計の開発 内野友樹 (東京都立大学)
13:00	V238a JASMINE 計画の全体概要と進捗 郷田直輝 (国立天文台)		10:30	V306a 湾曲 Si 結晶を用いたブラッグ反射型偏光計の偏光性能評価 (2) 芳野史弥 (中央大学)
13:12	V239a 国産 InGaAs 近赤外イメージセンサーの宇宙用化と、JASMINE 計画への適用検討 鹿野良平 (国立天文台)		10:42	V307a 像再構成型 X 線光学系に用いる前置スリットの開発 鈴木瞳 (東京都立大学)
13:24	V240a JASMINE 望遠鏡の基本パラメータ再設定 片坐宏一 (宇宙航空研究開発機構)		10:54	V308a ALD 技術を取り入れた全反射鏡の開発および X 線反射率測定による性能評価 武尾舞 (東京都立大学)
13:36	V241a JASMINE 望遠鏡新規光学系設計検討 鹿島伸悟 (国立天文台)		11:06	V309a 直入射型補償光学 EUV 望遠鏡によるサブ秒角撮像 北本俊二 (立教大学)
13:48	V242a 小型 JASMINE の解析ソフトウェアの構築 山田良透 (京都大学)		11:18	質疑応答 (10 分)
14:00	V243a 国産検出器を搭載した場合の仕様変更と観測データへの影響 矢野太平 (国立天文台)			
14:12	V244a Exo JASMINE: JASMINE による系外惑星探査 河原創 (東京大学)			
14:24	質疑応答 (10 分)			

3月16日(火) 午後・E会場		3月17日(水) 午前・E会場	
13:00	V310a ロブスターアイ光学系による X 線突発天体検出アルゴリズムの研究 澤野達哉(金沢大学)	09:30	V322a ダークバリオン探査ミッション Super DIOS の開発へ向けた検討 VII 佐藤浩介(埼玉大学)
13:12	V311a 30 m X 線ビームラインを用いたロブスターアイ光学系の地上試験及びシミュレーション 李晋(青山学院大学)	09:42	V323a 電鍍技術を用いた飛翔体搭載用高角度分解能多重薄板型 X 線望遠鏡の開発(4) 瀧川歩(名古屋大学)
13:24	V312a Kanazawa-SAT ³ 搭載広視野 X 線撮像検出器フライトモデルの性能評価(2) 橘建志(金沢大学)	09:54	V324a X 線偏光観測衛星 IXPE への参加現状(6) 玉川徹(理化学研究所)
13:36	V313a 速報実証衛星 ARICA のプロジェクト進捗状況(2020 年度後半) 畑泰代(青山学院大学)	10:06	V325a X 線偏光観測衛星 IXPE 搭載 X 線望遠鏡用受動型熱制御素子サーマルシールドの開発(8) 三石郁之(名古屋大学)
13:48	V314a 超小型衛星による、宇宙空間からの太陽中性子の観測(III) 山岡和貴(名古屋大学)	10:18	V326a 軟 X 線から硬 X 線の広帯域を高感度で撮像分光する小型衛星計画 FORCE の現状(11) 森浩二(宮崎大学)
14:00	V315a 明るい X 線源の柔軟な観測を狙う超小型 X 線衛星 NinjaSat 沼澤正樹(理化学研究所)	10:30	V327a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 46: 現在の到達点と今後の開発 鶴剛(京都大学)
14:12	V316a 超小型 X 線衛星 NinjaSat に搭載のガス X 線検出器の開発(2) 武田朋志(東京理科大学/理化学研究所)	10:42	V328a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 47:X 線 SOI ピクセル検出器の SEE 耐性評価 林田光揮(東京理科大学)
14:24	V317a 超小型 X 線衛星 NinjaSat 搭載の高電圧印加/アナログ信号処理基板の開発(2) 吉田勇登(東京理科大学/理化学研究所)	10:54	V329a X 線分光撮像衛星(XRISM) 搭載軟 X 線撮像装置(Xtend) の開発の現状(5) 林田清(大阪大学)
14:36	V318b 超小型 X 線衛星 NinjaSat に搭載する小型で軽量の X 線コリメーターの開発 岩切渉(中央大学)	11:06	V330a XRISM 搭載 Xtend の応答関数の調査(3) 花岡真帆(大阪大学)
14:36	V319b 炭素繊維強化プラスチック(CFRP) への X 線反射面形成法の開発 V 粟木久光(愛媛大学)	11:18	V331a X 線分光撮像衛星 XRISM 搭載 Resolve の開発の現状 VI 石崎欣尚(東京都立大学)
14:36	V320b グラフェン超薄膜を用いた高性能汎用型光学素子の開発 三石郁之(名古屋大学)	11:30	質疑応答(10分)
14:48	V321b 硬 X 線偏光検出気球実験 XL-Calibur 用 X 線望遠鏡の開発 松本浩典(大阪大学)		
15:00	質疑応答(10分)		

W. コンパクト天体

3月17日(水) 午後・E会場		3月16日(火) 午前・B会場	
13:00	V332a Cherenkov Telescope Array(CTA)計画: 全体報告(19) 山本常夏(甲南大学)	09:30	W01a TeVガンマ線バーストGRB 190829Aの 残光のOff-axisジェットモデルによる理 論的解釈 佐藤優理(青山学院大学)
13:12	V333a CTA 大口径望遠鏡におけるDRS4 波形 記録チップのサンプリング時間幅較正 野上優人(茨城大学)	09:42	W02a 若い強磁場中性子星 PSR J1208-6238 のX線光度への強い制限 馬場彩(東京大学)
13:24	V334a 高エネルギーガンマ線精密観測実験 GRAINE: 2018年気球実験の最新結 果および次期気球実験の展望 高橋覚(神戸大学)	09:54	W03a FRB 131104 硬X線対応候補天体の Swift/BAT データを用いた再解析 坂本貴紀(青山学院大学)
13:36	V335a 硬X線偏光観測実験 XL-Calibur 気球 実験計画 前田良知(宇宙航空研究開発機構)	10:06	W04a MAXI J1820+070 のスペクトル・時系 列解析にもとづくハード状態におけるブ ラックホール連星の降着流の性質 河村天陽(東京大学 Kavli IPMU)
13:48	V336a GRAMS 計画 2: MeV ガンマ線観測・ ダークマター探索気球実験 小高裕和(東京大学)	10:18	W05a 矮新星 KIC 9406652 における、公転軌 道面から傾いた降着円盤の性質の調査 II. super-orbital signals 木邑真理子(理化学研究所)
14:00	V337a 日米共同・太陽フレア X線集光撮像 分光観測ロケット実験 FOXSI-4 (CdTe 半導体焦点面検出器の開発) 渡辺伸(宇宙航空研究開発機構)	10:30	W06a 特異なX線トランジェント Swift J0840.7- 3516 の観測 志達めぐみ(愛媛大学)
14:12	質疑応答(10分)	10:42	W07a 那須電波干渉計によって観測された Cygnus X-3 の巨大フレア 坪野公夫((一社)電波天文学研究会)
		10:54	W08a 定常重力波初検出に向けた低質量 X 線連星 Sco X-1 の X線パルス探索 御堂岡拓哉(東京大学/宇宙航空研究開 発機構)
		11:06	W09a かにパルサーの巨大電波パルスに伴う X線超過の発見 榎戸輝揚(理化学研究所)
		11:18	W10a かにパルサーの巨大電波パルスに伴う X線超過の理論モデル 木坂将大(広島大学)
		11:30	W11b Ray-tracing 法に基づく、空間3次元一 般相対論的輻射輸送コードの開発 高橋幹弥(筑波大学)
		11:30	W12b W50/SS 433 の構造形成に関する磁気 流体計算 IV 大村匠(九州大学)

W. コンパクト天体

11:30	W13b	かにパルサーの巨大電波パルス：X線との相関解析のためのデータベース概要 寺澤敏夫（東京大学/国立天文台）	15:00	W24a	Fast Radio Burst Breakouts from Magnetar Burst Fireballs 井岡邦仁（京都大学）
11:42		質疑応答（10分）	15:12		質疑応答（10分）
3月16日（火）午後・B会場			3月17日（水）午前・B会場		
13:00	W14a	一般相対論的輻射磁気流体計算を用いたカー・ブラックホールへの超臨界降着の研究 内海碧人（筑波大学）	09:30	W25a	重力波事象 S200224ca におけるすばる/HSCでの追観測 大神隆幸（甲南大学）
13:12	W15a	How much SNR fallback can invade newborn pulsar wind and magnetosphere? YICI ZHONG (The University of Tokyo)	09:42	W26a	可視光静穏時における矮新星の境界層のX線観測 中庭望（東京都立大学）
13:24	W16a	爆発的質量放出により駆動される突発天体モデル：可視・紫外域で明るい潮汐破壊現象への適用 宇野孔起（京都大学）	09:54	W27a	マグネター 1E 1547.0-5408 のパルス位相変調における強いエネルギー依存性 牧島一夫（東京大学）
13:36	W17a	Super-Eddington天体に対するdusty-gasのHoyle-Lyttleton降着：角度依存性と定常構造 尾形絵梨花（筑波大学）	10:06	W28a	マイクロクエーサー SS433 からの高エネルギーガンマ線放射 木村成生（東北大学）
13:48	W18a	巨大ブラックホール Sgr A* の強重力場での重力理論の選別 斉田浩見（大同大学）	10:18	W29a	2018 outburst of black hole candidate: MAXI J1727-203 WANG Sili (Tokyo Institute of Technology)
14:00	W19a	一般相対論的輻射圧駆動ブラックホール風の再考 山本凌也（大阪教育大学）	10:30	W30a	「すざく」衛星のデータを用いたブラックホール連星 V4641 Sgr のX線放射領域の研究 伊藤穂乃花（東京工業大学）
14:12	W20a	回転駆動型パルサーからの角運動量放出について 柴田晋平（山形大学）	10:42	W31a	食を用いたIW And型矮新星のアウトバースト機構の検証 柴田真晃（京都大学）
14:24	W21a	Mass-gap Mergers in Active Galactic Nuclei 田川寛通（東北大学）	10:54	W32a	高速電波バーストの正体 橋本哲也 (National Tsing Hua University)
14:36	W22a	ULXとしてのBe型大質量X線連星系 鷹野重之（九州産業大学）	11:06	W33a	MAXI/GSCが検出した2020年度後半の突発現象 - ミニアウトバーストの検出 - 根来均（日本大学）
14:48	W23a	Synchrotron Boilers in Embryonic Neutron-Star Wind Nebulae 櫻山和己（東京大学）	11:18	W34a	大質量X線連星GX 301-2における増光時の円盤降着の幾何構造 高橋弘充（広島大学）
			11:30	W35b	Magnetically Arrested Diskの発現条件に関する理論研究 高棹真介（大阪大学）

11:30	W36b	京都大学 3.8m せいめい望遠鏡による矮新星アウトバーストの初期分光観測 反保雄介(京都大学)	14:48	W47a	Binary Black Boles from First Stars: Dependence on Initial Conditions and Stellar Models 谷川衝(東京大学)
11:30	W37b	超臨界磁化中性子星降着流のアウトフロー; 構造と起源の磁気圏半径依存性 井上壮大(筑波大学)	15:00		質疑応答(10分)
11:42		質疑応答(10分)			
3月17日(水) 午後・B会場			3月18日(木) 午前・B会場		
13:00	W38a	ショートガンマ線バーストジェットからの光球面放射の輻射輸送計算 伊藤裕貴(理化学研究所)	09:30	W48a	SS433 ジェット先端領域における宇宙線粒子加速の可能性 酒見はる香(九州大学)
13:12	W39a	The role of the nuclear equation of state on Type-I X-ray burst models 土肥明(九州大学)	09:42	W49a	Swift/XRT の X 線残光の光度曲線を用いた FRB 対応天体の探査 盛顯捷(青山学院大学)
13:24	W40a	r-process 元素の崩壊熱の影響を考慮した中性子星連星合体における Fall-back accretion 石崎渉(京都大学)	09:54	W50a	NICER による単独中性子星 RX J1856.5-3754 の解析 米山友景(大阪大学)
13:36	W41a	相対論的無衝突衝撃波での乱流ダイナモによる磁場増幅 富田沙羅(東北大学)	10:06	W51a	矮小銀河 IZw18 に存在する超高光度 X 線源の長期変動 善本真梨那(大阪大学)
13:48	W42a	最大質量・半径を適切に予言する中性子星 EoS の探査 渡邊千夏(埼玉大学)	10:18	W52a	電波望遠鏡 CHIME によるショートガンマ線バーストからの残光の観測可能性 鹿内みのり(東京大学)
14:00	W43a	連星中性子星からの放出物質の長期進化とキロノヴァ 川口恭平(東京大学)	10:30	W53a	Binary model による FRB121102 の周期性の解釈 和田知己(京都大学)
14:12	W44a	一般相対論的ボルツマン輻射輸送による超臨界降着流の輻射スペクトル計算 小川拓未(筑波大学)	10:42	W54a	Fast collective neutrino oscillations in core-collapse supernovae and neutron star mergers Milad Delfan Azari (Waseda University)
14:24	W45a	The Post-Breakout Cocoon in Binary Neutron Star Mergers HAMID HAMIDANI (Kyoto University)	10:54	W55a	ブラックホール・中性子星連星合体におけるエネルギー・角運動量相空間上の物質分布 林航大(京都大学)
14:36	W46a	原子中性子星におけるミューオンとそのニュートリノシグナルに与える影響 杉浦健一(早稲田大学)	11:06	W56a	散開星団起源連星ブラックホールの有効スピンパラメータ分布 熊本淳(東京大学)
			11:18	W57a	中性子過剰ウラン同位体の核分裂が r プロセス元素合成に与える影響 西村信哉(理化学研究所)
			11:30		質疑応答(10分)

X. 銀河形成・進化

3月18日(木) 午前・C会場		3月18日(木) 午後・C会場	
09:30	X01a HSC-SSPによる銀河 SED から探る星形成史 杉森加奈子(総合研究大学院大学)	13:00	X13a 赤方偏移 4.6 の大規模構造におけるサブミリ波銀河の性質 三橋一輝(東京大学)
09:42	X02a Galaxy SED Fitting using Nonparametric Star Formation History Model Shuo Huang (The University of Tokyo)	13:12	X14a ALMA Deep Field in SSA22:A near-infrared-dark submillimeter galaxy at $z=4.0$ Hideki Umehata (RIKEN)
09:54	X03a Star Formation Rate Function at $z \sim 4.5$ from Rest FUV to Optical 浅田喜久(京都大学)	13:24	X15a A massive quiescent galaxy confirmed in a protocluster at $z=3.09$ 久保真理子(愛媛大学)
10:06	X04a Search for Optically Dark Infrared Galaxies without Counterparts of Subaru Hyper Suprime-Cam in the AKARI North Ecliptic Pole Wide Survey Field 鳥羽儀樹(京都大学)	13:36	X16a HI Tomographic survey in the SSA22 field (SSA22-HIT) (II): tomographic map at $2.7 < z < 3.55$ 馬渡健(東京大学)
10:18	X05a 分光データに基づく最遠方低光度クエーサーの種族推定 高橋歩美(愛媛大学)	13:48	X17a 大質量銀河団 SPT-CL J0615-5746 に属する CO 分子輝線銀河が示す環境効果による星形成活動の抑制 中野覚矢(名古屋大学)
10:30	X06a A morphological study of galaxies with optical variability selected AGN ZHONG Yuxing (Waseda University)	14:00	X18a Dust, gas, and metal content in star-forming galaxies at $z \sim 3.3$ 鈴木智子(東北大学/国立天文台/University of Groningen)
10:42	X07a The molecular gas fraction of radio galaxies at $z \sim 5$ Kianhong Lee (The University of Tokyo)	14:12	X19a Relationship between dust distribution and galaxy formation history in SMGs using ALMA 小山紗桜(新潟大学/国立天文台)
10:54	X08a LMT/B4R の初期科学成果: 極高光度サブミリ波銀河の一酸化炭素輝線観測 萩本将都(名古屋大学)	14:24	X20a アルマとハッブル宇宙望遠鏡の協調観測で探る銀河の形態進化 但木謙一(国立天文台)
11:06	X09a 重力レンズクエーサー Cloverleaf における CO($J=3-2$) 輝線の像復元とクエーサー母銀河の分子ガス分布および速度構造 小田川琢郎(上越教育大学)	14:36	X21a 面分光データ MaNGA で探る銀河内部の星形成の銀河形態依存性 小山舜平(国立天文台)
11:18	X10b 重力レンズクエーサー Cloverleaf における 350 GHz 帯分子輝線サーベイ 西村優里(東京大学/国立天文台)	14:48	X22a Identification and Investigation of Interacting Galaxies Using Spatially Resolved Kinematic Indicators Omori, Kiyooki Christopher (Nagoya University)
11:18	X11b Poor Property of Rest UV Luminosity as a SFR Indicator in High- z Universe 浅田喜久(京都大学)	15:00	質疑応答(10分)
11:18	X12b すばる望遠鏡 HSC 撮像データを用いた、2型 AGN を宿す銀河の形態解析 岩本凌(愛媛大学)		
11:30	質疑応答(10分)		

3月19日(金) 午前・C会場		3月19日(金) 午後・C会場	
09:30	X23a 銀河形成の「ロゼッタストーン」: Hバンドドロップ $z \sim 13$ 銀河探査 播金優一(東京大学 / University College London)	13:00	X32a Gaia データに基づく天の川銀河ハローの広域構造の構築 佐藤元太(東北大学)
09:42	X24a ALMA 微細構造線と電離平衡モデルを用いた ($z > 6$) BPT 図の推定 菅原悠馬(国立天文台 / 早稲田大学)	13:12	X33a 銀河系矮小銀河ダークマター密度分布の多様性 林航平(東北大学)
09:54	X25a 重力レンズ効果を考慮した回転円盤モデルフィッティングコードの開発 徳岡剛史(早稲田大学)	13:24	X34a ダークマターサブハロー衝突によるダークマター欠乏銀河の形成過程 大滝恒輝(筑波大学)
10:06	X26a Dust at high redshift; an observational perspective Tom Johannes Lucinde Cyrillus Bakx (Nagoya University)	13:36	X35a Dark Matter Sub-halo の衝突頻度計算 数野優大(筑波大学)
10:18	X27a The ALPINE-ALMA [CII] survey: Dust attenuation properties and obscured star formation at $z \sim 4.4-5.8$ Fudamoto Yoshinobu (Waseda University)	13:48	X36a Age dating the Galactic Bar with the nuclear stellar disk and BPX bulge 馬場淳一(国立天文台)
10:30	X28a [CII] Halo in the early Universe 藤本征史 (Cosmic Dawn Center, Niels Bohr Institute)	14:00	X37a 銀河中心領域の質量分布変化が内部バー構成軌道群に与える影響の解析 中津野侃貴(東京大学)
10:42	X29a すばる望遠鏡 / HSC による $z=7.3$ Ly α 光度関数と宇宙再電離への制限 五島雛子(東京大学)	14:12	X38a [OIII] 輝線比によるブラックホール理論モデルへの制限 井上茂樹(筑波大学 / 国立天文台)
10:54	X30a Ly α Luminosity Function at $z=1.9-3.5$ determined by the HETDEX Survey Yechi Zhang (The University of Tokyo)	14:24	X39a 超新星残骸の時間発展を考慮した超新星フィードバックモデルの構築 奥裕理(大阪大学)
11:06	X31a Do UV-bright galaxies universally have a Ly α halo? 日下部晴香 (University of Geneva)	14:36	X40a AGN Feedback Model for Galaxy Simulation Abednego Wiliardy (Osaka University)
11:18	質疑応答(10分)	14:48	X41a 原始銀河団領域での星形成・化学組成比進化 福島啓太(大阪大学)
		15:00	X42a 超矮小銀河の s 過程元素生成について 垂水勇太(東京大学)
		15:12	質疑応答(10分)

Y. 天文教育・広報普及・その他

3月17日(水) 午前・H会場		3月17日(水) 午後・H会場	
09:30	Y01a インターネット天文学辞典：利用状況調査に基づく運用・コンテンツの改良 縣秀彦(国立天文台)	13:00	Y12a 岡山天体物理観測所乾板データアーカイブ構築の進捗 根本しおみ(有限会社天窓工房)
09:42	Y02a 高等学校「課題探究型授業」における天文分野の調査結果 石田光宏(横浜市立戸塚高等学校)	13:12	Y13a 市民科学による「長野県は宇宙県」の近代天文学史100年の構築に向けて 大西浩次(長野工業高等専門学校)
09:54	Y03a 高校生向け天文学実習「銀河学校」のオンライン実施報告 坂井郁哉(NPO法人サイエンスステーション/東京大学)	13:24	Y14a 行方不明だった1887年の内務省回収分の日食観測記録の発見 福島薫(川崎天文同好会)
10:06	Y04a 今年はおうちで特別公開～野辺山特別公開2020～ 衣笠健三(国立天文台)	13:36	Y15a 緯度観測所と水沢の公立女学校 馬場幸栄(一橋大学)
10:18	Y05a 科学ライブショー「ユニバース」オンライン上演の実施報告 亀谷和久(国立天文台)	13:48	Y16a 明治初期の教科書における天文学の記述 玉澤春史(京都市立芸術大学/京都大学)
10:30	Y06a 木星・土星“超”大接近観測プロジェクト：惑星で星空視力大実験!!! 内藤博之(なよろ市立天文台)	14:00	Y17a 歴史資料からたどる江戸時代の天文遊歴家朝野北水の活動範囲 陶山徹(長野市立博物館)
10:42	Y07a Raspberry Pi High Quality Cameraによる夜空の明るさ測定可能性 小野間史樹(星空公団)	14:12	質疑応答(10分)
10:54	Y08b 学習投影における博学連携の課題と可能性－平塚市博物館を事例として－ 石井菜摘(東京学芸大学)		
10:54	Y09b 「長野県は宇宙県」キーワードラリー2020 衣笠健三(国立天文台)		
10:54	Y10b 東京学芸大学の新40cm鏡と制御システムの開発1 川崎優太(東京学芸大学)		
11:06	Y11b 国立天文台天文データセンターが運用する多波長データ解析システム利用状況 亀谷和久(国立天文台)		
11:18	質疑応答(10分)		

2021年2月20日発行

年会実行委員会

委員長	酒井剛	(電気通信大学)
委員	和泉 究	(宇宙航空研究開発機構)
	岩切 涉	(中央大学)
	鈴木 知治	(中部大学)
	成田 憲保	(東京大学)
	甘日出 文洋	(東京大学)
	古澤 久徳	(国立天文台)
	堀田 英之	(千葉大学)
	松岡 良樹	(愛媛大学)
	町田 真美	(国立天文台) 保育室担当

年会開催地理事

佐藤文衛 (東京工業大学)